

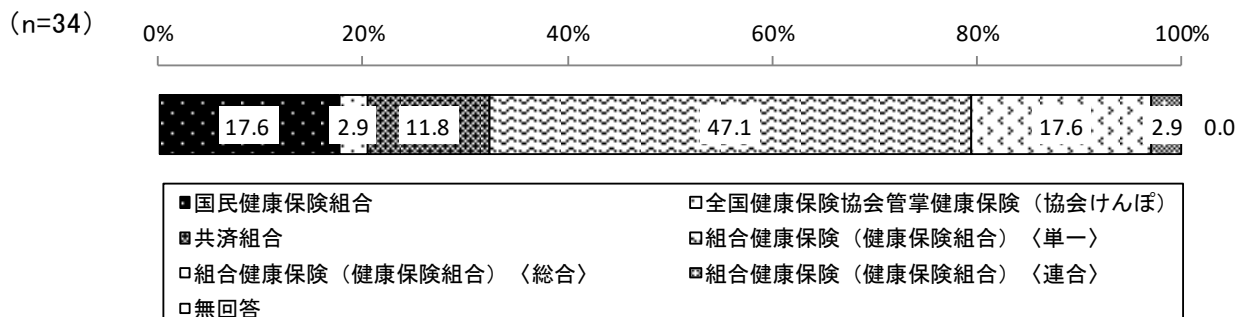
IV 調査結果の詳細【医療保険者】

1 医療保険者の概要

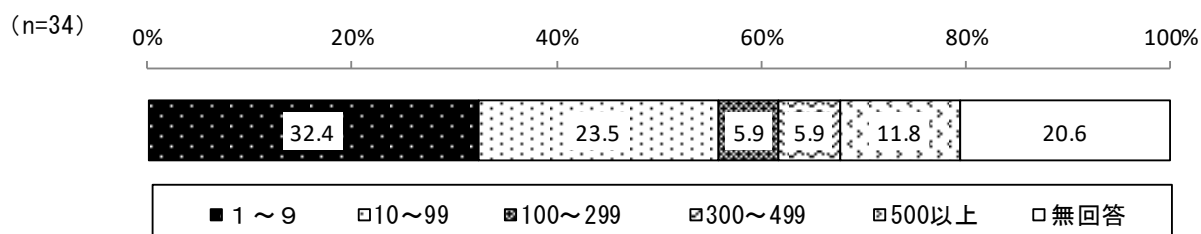
問1 貴保険者の概要についてお答えください。

平成30年4月1日時点についてお答えください。(不明な場合は、現時点についてお答えください。)

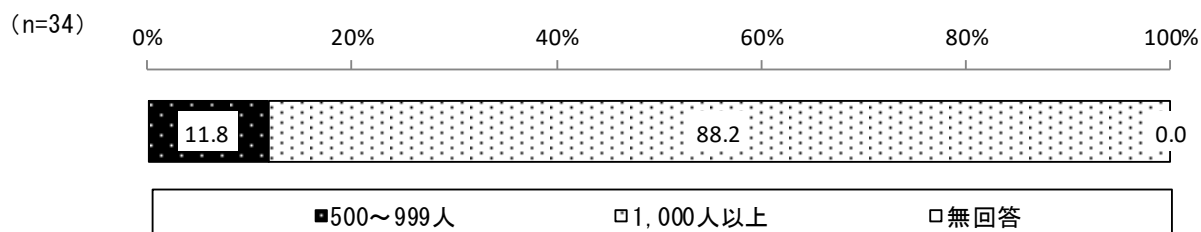
ア. 医療保険者の種類



イ. 加入事業所数



ウ. 被保険者規模



エ. 加入事業所の主たる業種

(n=34)

業種	事業所数	構成比
医療保険者数	34	100.0%
製造業	17	50.0%
医療, 福祉	7	20.6%
建設業	4	11.8%
金融業, 保険業	4	11.8%
サービス業 (ほかに分類されないもの)	4	11.8%
卸売業, 小売業	3	8.8%
生活関連サービス業, 娯楽業	3	8.8%
不動産業, 物品賃貸業	2	5.9%
学術研究, 専門・技術サービス業	2	5.9%
教育, 学習支援業	2	5.9%
複合サービス業	2	5.9%
農林漁業, 鉱業	1	2.9%
電気・ガス・熱供給・水道業	1	2.9%
情報通信業	1	2.9%
運輸業, 郵便業	1	2.9%
宿泊業, 飲食サービス業	1	2.9%
無回答	1	2.9%

2 がん検診の実施状況

問2 貴保険者のがん検診の実施状況についてお答えください。

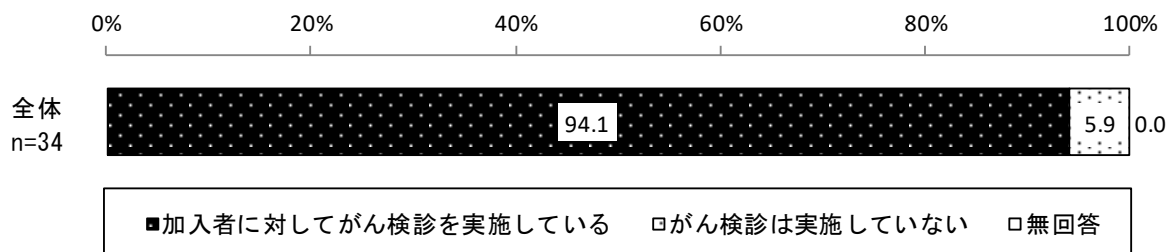
(1) がん検診実施の有無及びがん検診を受診できる加入者の範囲

【全体の傾向】

自らの医療保険の＜加入者に対しがん検診を実施している＞医療保険者は 94.1%。「がん検診は実施していない」とした医療保険者は 5.9%で、全体の9割以上ががん検診を実施している。

がん検診を受診できる加入者の範囲として選択があったのは「被保険者」が 94.1%、「被扶養者」が 76.5%となっている。

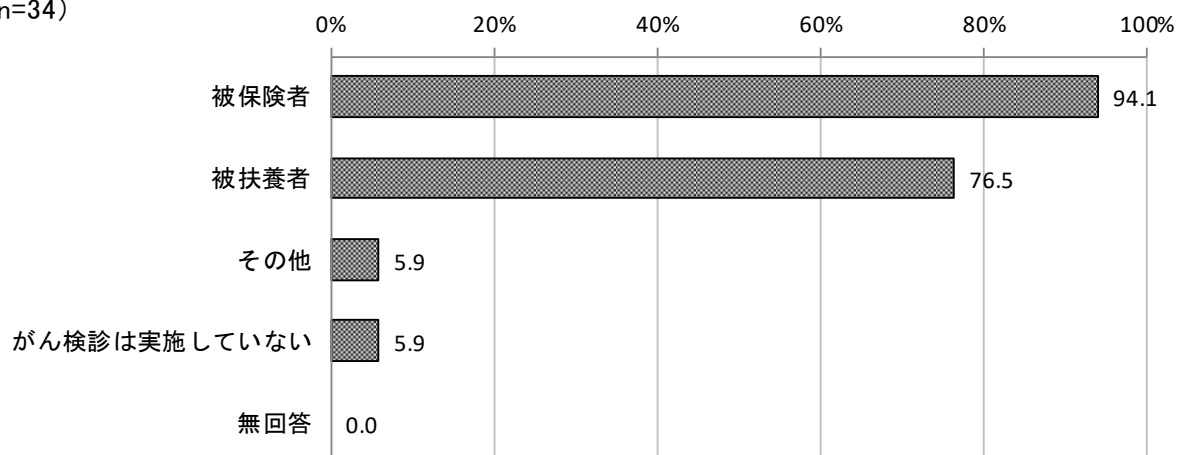
問2 (1) より 加入者へのがん検診実施の有無*



※＜加入者に対しがん検診を実施している＞は、問2 (1) において「がん検診を受診できる加入者の範囲」の「被保険者」から「その他」までに1つ以上の選択があった保険医療者数より算出。

(1) 検診を受診できる加入者の範囲 (該当すべてに○)

(n=34)



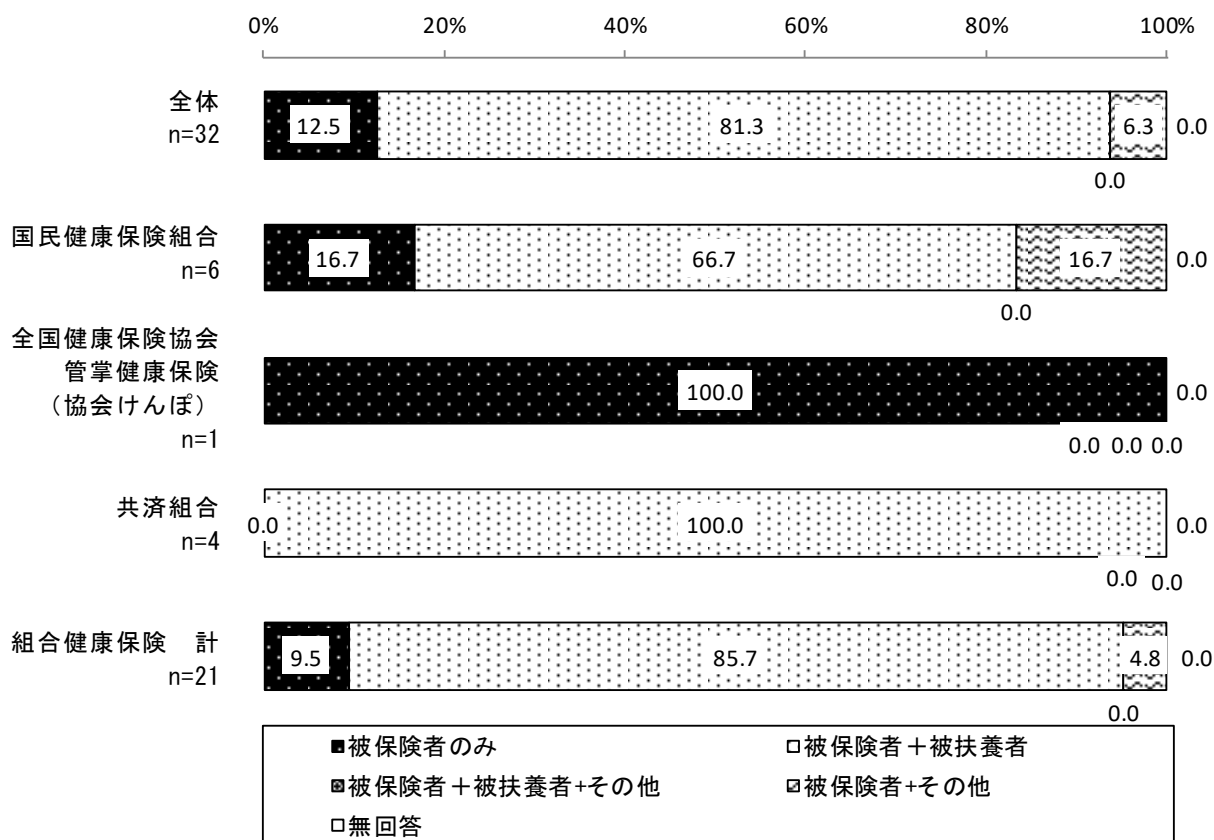
【医療保険者の種別の傾向】

上段：件数、下段：構成比（％）

	医療保険者数	てがん検診を実施している 計	がん検診を実施している			てがん検診は実施しない	無回答
			被保険者	被扶養者	その他		
国民健康保険組合	6 100.0	6 100.0	6 100.0	4 66.7	1 16.7	- -	- -
全国健康保険協会管掌健康保険（協会けんぽ）	1 100.0	1 100.0	1 100.0	-	-	- -	- -
共済組合	4 100.0	4 100.0	4 100.0	4 100.0	-	- -	- -
組合健康保険 計	23 100.0	21 91.3	21 91.3	18 78.3	1 4.4	2 8.7	- -
合計	34 100.0	32 94.1	32 94.1	26 76.5	2 5.9	2 5.9	- -

医療保険者の種別にみると、＜加入者に対しがん検診を実施している＞割合は、【組合健康保険 計】で91.3%、その他は100.0%となっている。

【がん検診を受診できる加入者の範囲の組み合わせ（参考）】



がん検診を受診できる加入者の範囲について、組み合わせをみると、全体では「被保険者+被扶養者」が81.3%で最も多く、次いで「被保険者のみ」が12.5%となっている。

(2) 各がんの検診実施の有無及び実施主体

【全体の傾向】

＜加入者に対しがん検診を実施している＞医療保険者に、各がん検診の実施主体を伺ったところ、被保険者・被扶養者とも、5つのがんすべてにおいて「医療保険者が実施」が最も多く、半数以上となっている。

[被保険者]

問2 (2) 実施状況 (各がん検診について、該当すべてに○)

	医療保険者数	実施している	上段：件数、下段：構成比 (%)		実施していない	無回答
			医療保険者が実施	事業所と共同で実施		
胃がん	32 100.0	29 90.6	22 68.8	7 21.9	3 9.4	- -
大腸がん	32 100.0	32 100.0	24 75.0	8 25.0	- -	- -
肺がん	32 100.0	25 78.1	17 53.1	8 25.0	6 18.8	1 3.1
乳がん	32 100.0	22 68.8	17 53.1	5 15.6	10 31.3	- -
子宮頸がん	32 100.0	22 68.8	17 53.1	5 15.6	10 31.3	- -

被保険者では、「医療保険者が実施」と「事業所と共同で実施」を合計した、各がん検診を＜実施している＞医療保険者は、[胃がん]は90.6%、[肺がん]は78.1%、[乳がん][子宮頸がん]はいずれも68.8%となっている。[大腸がん]においてはすべての医療保険者が＜実施している＞と回答している。

[被扶養者]

問2 (2) 実施状況 (各がん検診について、該当すべてに○)

上段：件数、下段：構成比 (%)

	医療 保険 者 数	実 施 し て い る	実施している		実 施 し て い な い	無 回 答
			医 療 保 険 者 が 実 施	施 事 業 所 と 共 同 で 実		
胃がん	32 100.0	24 75.0	19 59.4	5 15.6	7 21.9	1 3.1
大腸がん	32 100.0	26 81.3	21 65.6	5 15.6	5 15.6	1 3.1
肺がん	32 100.0	21 65.6	18 56.3	3 9.4	9 28.1	2 6.3
乳がん	32 100.0	20 62.5	17 53.1	3 9.4	10 31.3	2 6.3
子宮頸がん	32 100.0	20 62.5	17 53.1	3 9.4	10 31.3	2 6.3

被扶養者では、各がん検診を<実施している>医療保険者は、[大腸がん]が81.3%で最も多く、次いで[胃がん]が75.0%、[肺がん][乳がん][子宮頸がん]は6割台となっている。

【医療保険者の種別の傾向】

[被保険者]

上段：件数、下段：構成比（％）

	医療 保険 者 数	実 施 し て い る	実 施 し て い な い		無 回 答		
			医 療 保 険 者 が 実 施	施 事 業 所 と 共 同 で 実			
胃 が ん	国民健康保険組合	6 100.0	5 83.3	4 66.7	1 16.7	1 16.7	- -
	全国健康保険協会管掌健康保険 （協会けんぽ）	1 100.0	1 100.0	1 100.0	- -	- -	- -
	共済組合	4 100.0	4 100.0	- -	4 100.0	- -	- -
	組合健康保険 計	21 100.0	19 90.5	17 81.0	2 9.5	2 9.5	- -
大 腸 が ん	国民健康保険組合	6 100.0	6 100.0	5 83.3	1 16.7	- -	- -
	全国健康保険協会管掌健康保険 （協会けんぽ）	1 100.0	1 100.0	1 100.0	- -	- -	- -
	共済組合	4 100.0	4 100.0	- -	4 100.0	- -	- -
	組合健康保険 計	21 100.0	21 100.0	18 85.7	3 14.3	- -	- -
肺 が ん	国民健康保険組合	6 100.0	5 83.3	4 66.7	1 16.7	1 16.7	- -
	全国健康保険協会管掌健康保険 （協会けんぽ）	1 100.0	1 100.0	1 100.0	- -	- -	- -
	共済組合	4 100.0	3 75.0	- -	3 75.0	1 25.0	- -
	組合健康保険 計	21 100.0	16 76.2	12 57.1	4 19.0	4 19.0	1 4.8
乳 が ん	国民健康保険組合	6 100.0	4 66.7	3 50.0	1 16.7	2 33.3	- -
	全国健康保険協会管掌健康保険 （協会けんぽ）	1 100.0	1 100.0	1 100.0	- -	- -	- -
	共済組合	4 100.0	2 50.0	- -	2 50.0	2 50.0	- -
	組合健康保険 計	21 100.0	15 71.4	13 61.9	2 9.5	6 28.6	- -
子 宮 頸 が ん	国民健康保険組合	6 100.0	4 66.7	3 50.0	1 16.7	2 33.3	- -
	全国健康保険協会管掌健康保険 （協会けんぽ）	1 100.0	1 100.0	1 100.0	- -	- -	- -
	共済組合	4 100.0	2 50.0	- -	2 50.0	2 50.0	- -
	組合健康保険 計	21 100.0	15 71.4	13 61.9	2 9.5	6 28.6	- -

被保険者での状況を医療保険者の種別にみると、各がん検診を＜実施している＞医療保険者は、【共済組合】では5つすべてのがんにおいて「事業所と共同実施」が最も多くなっている。

【組合健康保険 計】では、5つのすべてのがんにおいて＜実施している＞が7割以上となっている。

[被扶養者]

上段：件数、下段：構成比（%）

	医療保険者数	実施している	実施している		実施していない	無回答
			医療保険者が実施	施事業所と共同で実		
胃がん	国民健康保険組合	6 100.0	4 66.7	3 50.0	1 16.7	1 16.7
	全国健康保険協会管掌健康保険 （協会けんぽ）	1 100.0	- -	- -	- -	1 100.0
	共済組合	4 100.0	4 100.0	1 25.0	3 75.0	- -
	組合健康保険 計	21 100.0	16 76.2	15 71.4	1 4.8	5 23.8
大腸がん	国民健康保険組合	6 100.0	5 83.3	4 66.7	1 16.7	- 16.7
	全国健康保険協会管掌健康保険 （協会けんぽ）	1 100.0	- -	- -	- -	1 100.0
	共済組合	4 100.0	4 100.0	1 25.0	3 75.0	- -
	組合健康保険 計	21 100.0	17 81.0	16 76.2	1 4.8	4 19.0
肺がん	国民健康保険組合	6 100.0	4 66.7	3 50.0	1 16.7	1 16.7
	全国健康保険協会管掌健康保険 （協会けんぽ）	1 100.0	- -	- -	- -	1 100.0
	共済組合	4 100.0	2 50.0	- -	2 50.0	2 50.0
	組合健康保険 計	21 100.0	15 71.4	15 71.4	- -	5 23.8
乳がん	国民健康保険組合	6 100.0	3 50.0	2 33.3	1 16.7	2 33.3
	全国健康保険協会管掌健康保険 （協会けんぽ）	1 100.0	- -	- -	- -	1 100.0
	共済組合	4 100.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0
	組合健康保険 計	21 100.0	15 71.4	14 66.7	1 4.8	6 28.6
子宮頸がん	国民健康保険組合	6 100.0	3 50.0	2 33.3	1 16.7	2 33.3
	全国健康保険協会管掌健康保険 （協会けんぽ）	1 100.0	- -	- -	- -	1 100.0
	共済組合	4 100.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0
	組合健康保険 計	21 100.0	15 71.4	14 66.7	1 4.8	6 28.6

被扶養者での状況を医療保険者の種別にみると、各がん検診を＜実施している＞医療保険者は、【組合健康保険 計】では、5つのすべてのがんにおいて＜実施している＞が7割以上となっている。

(2-1) (参考) 実施しているがんの組み合わせ

【全体の傾向】

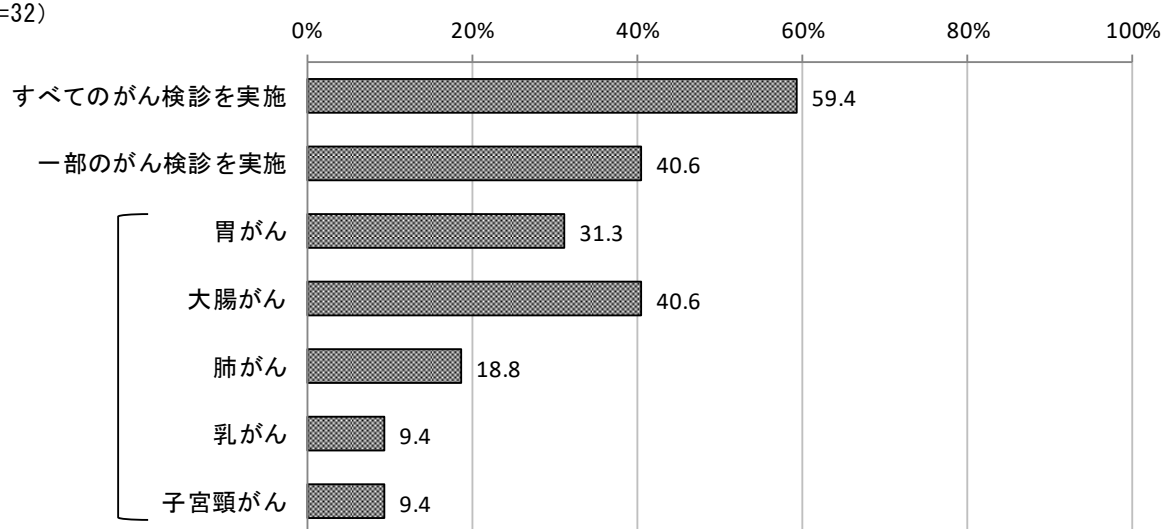
がん検診を実施している医療保険者における、実施しているがんの組み合わせをみると、被保険者・被扶養者ともに、「すべてのがん検診を実施」がそれぞれ 59.4%、53.6%と半数以上となっている。

「一部のがん検診を実施」している場合の実施しているがんの種類は、被保険者・被扶養者ともに [大腸がん] がそれぞれ 40.6%、39.3%で最も多く、次いで [胃がん] がそれぞれ 31.3%、32.1%となっている。[乳がん] [子宮頸がん] は被保険者で 1 割未満となっている。

【被保険者】

問2 (2-2) 実施しているがんの組み合わせ

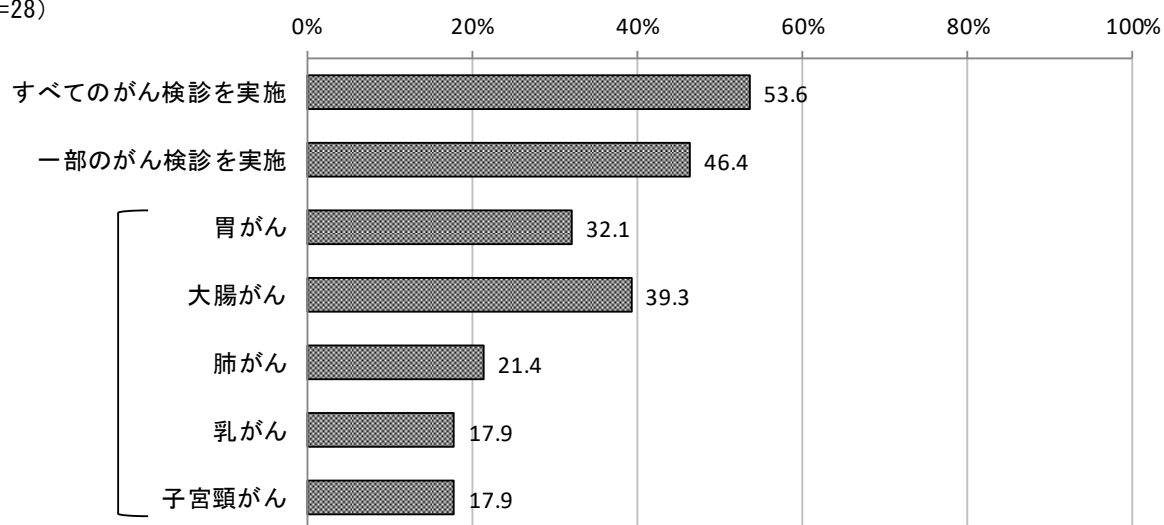
(n=32)



【被扶養者】

問2 (2-2) 実施しているがんの組み合わせ

(n=28)



【医療保険者の種別の傾向】

[被保険者]

上段：件数、下段：構成比（％）

	医療保険者数	をすべてのがん検診を実施	実一部のがん検診を実施	胃がん	大腸がん	肺がん	乳がん	子宮頸がん
				件数	件数	件数	件数	件数
国民健康保険組合	6 100.0	4 66.7	2 33.3	1 16.7	2 33.3	1 16.7	-	-
全国健康保険協会管掌健康保険（協会けんぽ）	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-	-	-
共済組合	4 100.0	2 50.0	2 50.0	2 50.0	2 50.0	1 25.0	-	-
組合健康保険 計	21 100.0	12 57.1	9 42.9	7 33.3	9 42.9	4 19.1	3 14.3	3 14.3

[被扶養者]

上段：件数、下段：構成比（％）

	医療保険者数	をすべてのがん検診を実施	実一部のがん検診を実施	胃がん	大腸がん	肺がん	乳がん	子宮頸がん
				件数	件数	件数	件数	件数
国民健康保険組合	5 100.0	3 50.0	2 33.3	1 16.7	2 33.3	1 16.7	-	-
全国健康保険協会管掌健康保険（協会けんぽ）	-	-	-	-	-	-	-	-
共済組合	4 100.0	1 25.0	3 75.0	3 75.0	3 75.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0
組合健康保険 計	19 100.0	11 52.4	8 38.1	5 23.8	6 28.6	4 19.1	4 19.1	1 4.8

医療保険者の種別で見ると、被保険者・被扶養者ともに、国民健康保険組合では「すべてのがん検診を実施」が「一部のがん検診を実施」を上回っている。

(3) がん検診実施方法

【全体の傾向】

被保険者・被扶養者とも、5つのがんすべてにおいて「他の健康診断等と同時実施」が多く、8～9割台となっている。「がん検診単独実施」は〔子宮頸がん〕で3割台、〔乳がん〕で2割台となっている。

〔被保険者〕

問2 (3) 実施方法 (各がん検診について、該当すべてに○)

上段：件数、下段：構成比 (%)

	医療 保険 者 数	が ん 検 診 単 独 実 施	実 他 の 健 康 診 断 等 と 同 時	無 回 答
胃がん	29 100.0	4 13.8	26 89.7	1 3.4
大腸がん	32 100.0	5 15.6	28 87.5	1 3.1
肺がん	25 100.0	3 12.0	24 96.0	- -
乳がん	22 100.0	6 27.3	19 86.4	- -
子宮頸がん	22 100.0	8 36.4	19 86.4	- -

〔被扶養者〕

問2 (3) 実施方法 (各がん検診について、該当すべてに○)

上段：件数、下段：構成比 (%)

	医療 保険 者 数	が ん 検 診 単 独 実 施	実 他 の 健 康 診 断 等 と 同 時	無 回 答
胃がん	24 100.0	3 12.5	21 87.5	2 8.3
大腸がん	26 100.0	4 15.4	22 84.6	2 7.7
肺がん	21 100.0	3 14.3	20 95.2	- -
乳がん	20 100.0	5 25.0	18 90.0	- -
子宮頸がん	20 100.0	6 30.0	18 90.0	- -

(4) がん検診の費用負担の状況

【全体の傾向】

各がん検診の費用負担の状況を伺ったところ、被保険者・被扶養者とも、5つのがんすべてにおいて「一部受診者負担（医療保険者や事業所からの助成）」が最も多く、[乳がん]では7割台となっている。「受診者自己負担なし」は、被保険者の[大腸がん]で43.8%と最も多くなっている。

【被保険者】

問2(4) 費用負担の状況（各がん検診について、該当すべてに○）

	上段：件数、下段：構成比（%）				
	医療保険者数	受診者自己負担なし	ら療一部受診者負担（の保険者や事業所か医	全額受診者負担	無回答
胃がん	29 100.0	10 34.5	19 65.5	-	2 6.9
大腸がん	32 100.0	14 43.8	18 56.3	-	2 6.3
肺がん	25 100.0	10 40.0	15 60.0	-	1 4.0
乳がん	22 100.0	6 27.3	16 72.7	-	1 4.5
子宮頸がん	22 100.0	8 36.4	15 68.2	-	1 4.5

【被扶養者】

問2(4) 費用負担の状況（各がん検診について、該当すべてに○）

	上段：件数、下段：構成比（%）				
	医療保険者数	受診者自己負担なし	ら療一部受診者負担（の保険者や事業所か医	全額受診者負担	無回答
胃がん	24 100.0	5 20.8	18 75.0	-	2 8.3
大腸がん	26 100.0	7 26.9	18 69.2	-	2 7.7
肺がん	21 100.0	7 33.3	14 66.7	-	1 4.8
乳がん	20 100.0	5 25.0	15 75.0	-	1 5.0
子宮頸がん	20 100.0	7 35.0	14 70.0	-	1 5.0

(5) (実施していないがん検診について) 実施していない理由

【全体の傾向】

被扶養者・被保険者ともに「法律の義務付けがない」「予算・人員・設備不足」が多くなっている。

〔被保険者〕

問2 (5) がん検診を実施していない理由 (各がん検診について、該当すべてに○)

上段：件数、下段：構成比 (%)

	医療 保険 者数	い 法 律 の 義 務 付 け が な い	足 予 算 ・ 人 員 ・ 設 備 不 足	を 保 険 者 で 行 う 必 要 性 を 感 じ な い	し 他 の 主 体 で 既 に 実 施 し て い る	い 施 検 診 す べ き か の よ う に な ら な い	特 に 理 由 は な い	そ の 他	無 回 答
胃がん	3 100.0	- -	- -	- -	- -	- -	- -	3 100.0	- -
大腸がん	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
肺がん	6 100.0	- -	- -	- -	1 16.7	- -	3 50.0	2 33.3	- -
乳がん	10 100.0	2 20.0	3 30.0	- -	1 10.0	- -	2 20.0	2 20.0	- -
子宮頸がん	10 100.0	3 30.0	3 30.0	- -	1 10.0	- -	2 20.0	2 20.0	- -

〔被扶養者〕

問2 (5) がん検診を実施していない理由 (各がん検診について、該当すべてに○)

上段：件数、下段：構成比 (%)

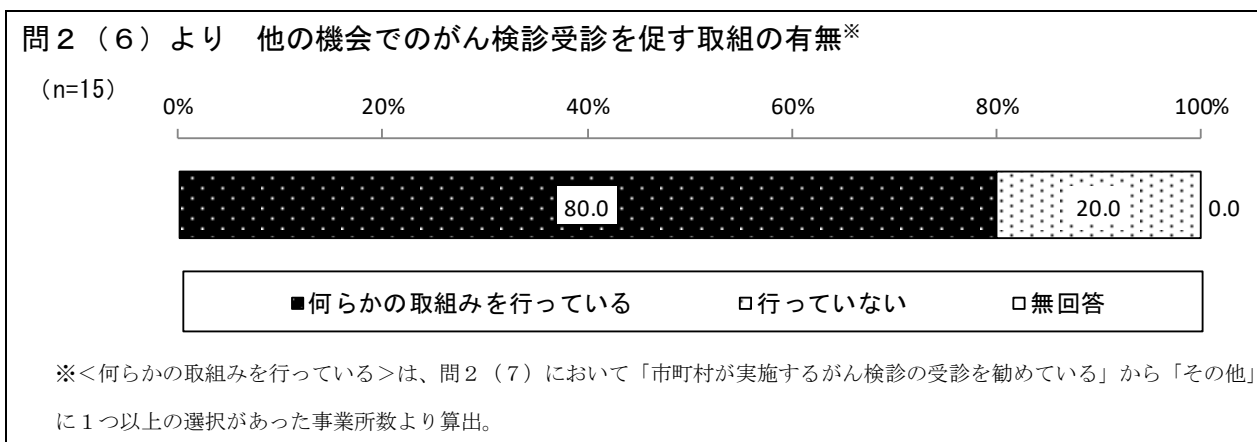
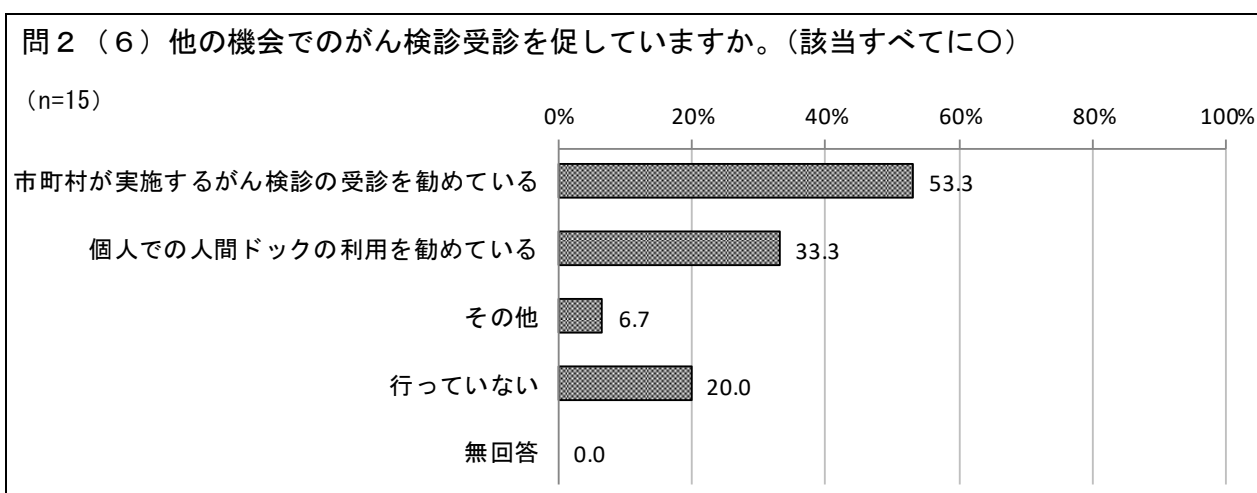
	医療 保険 者数	い 法 律 の 義 務 付 け が な い	足 予 算 ・ 人 員 ・ 設 備 不 足	を 保 険 者 で 行 う 必 要 性 を 感 じ な い	し 他 の 主 体 で 既 に 実 施 し て い る	い 施 検 診 す べ き か の よ う に な ら な い	特 に 理 由 は な い	そ の 他	無 回 答
胃がん	7 100.0	2 28.6	2 28.6	- -	- -	- -	1 14.3	2 28.6	- -
大腸がん	5 100.0	2 40.0	2 40.0	- -	- -	- -	1 20.0	- -	- -
肺がん	9 100.0	3 33.3	1 11.1	- -	- -	- -	3 33.3	2 22.2	- -
乳がん	10 100.0	3 30.0	3 30.0	- -	- -	- -	2 20.0	2 20.0	- -
子宮頸がん	10 100.0	4 40.0	3 30.0	- -	- -	- -	2 20.0	2 20.0	- -

(6) (実施していないがん検診について) 他の機会を受診を促す取組

【全体の傾向】

実施していないがん検診について、他の機会でのがん検診の受診を促すために、<何らかの取組みを行っている>医療保険者は 80.0%となっており、取組みを「行っていない」は 20.0%となっている。

取組みとしては「市町村が実施するがん検診の受診を勧めている」が 53.3%、「個人での人間ドックの利用を勧めている」が 33.3%となっている。



3 各がん検診の検査実施方法及び受診状況

問3 貴事業所で実施した各がん検診の検査実施方法及び実施状況についてお答えください。

(1) 各がん検診の検査方法

ア. 胃がん

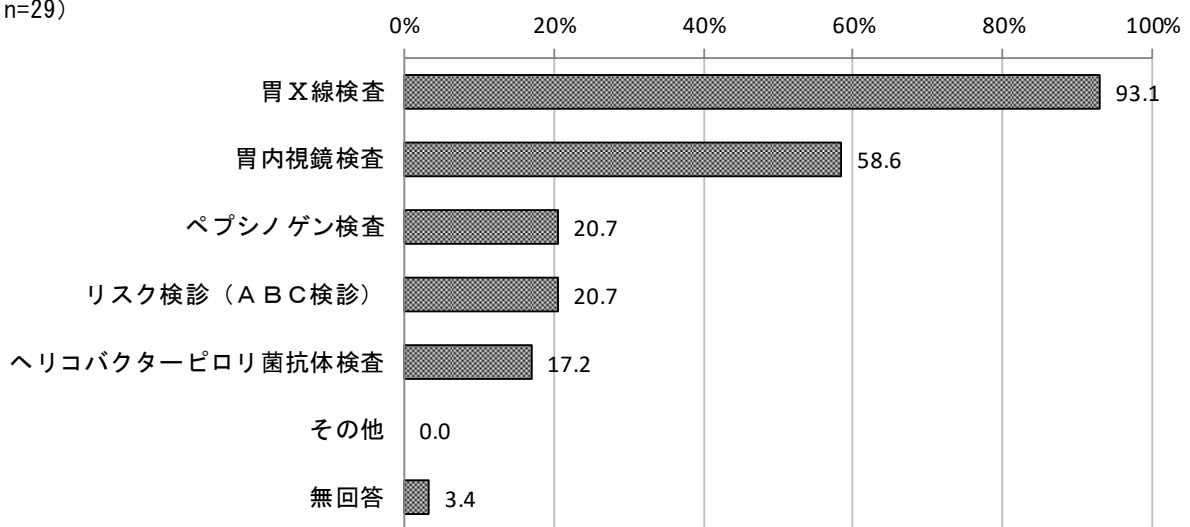
【全体の傾向】

胃がん検診の（一次検診）の検査方法は、被保険者・被扶養者ともに「胃X線検査」がそれぞれ93.1%、91.7%で最も多くなっている。次いで、「胃内視鏡検査」がそれぞれ58.6%、45.8%となっている。

[被保険者]

問3 (1) 検診方法（一次検診）

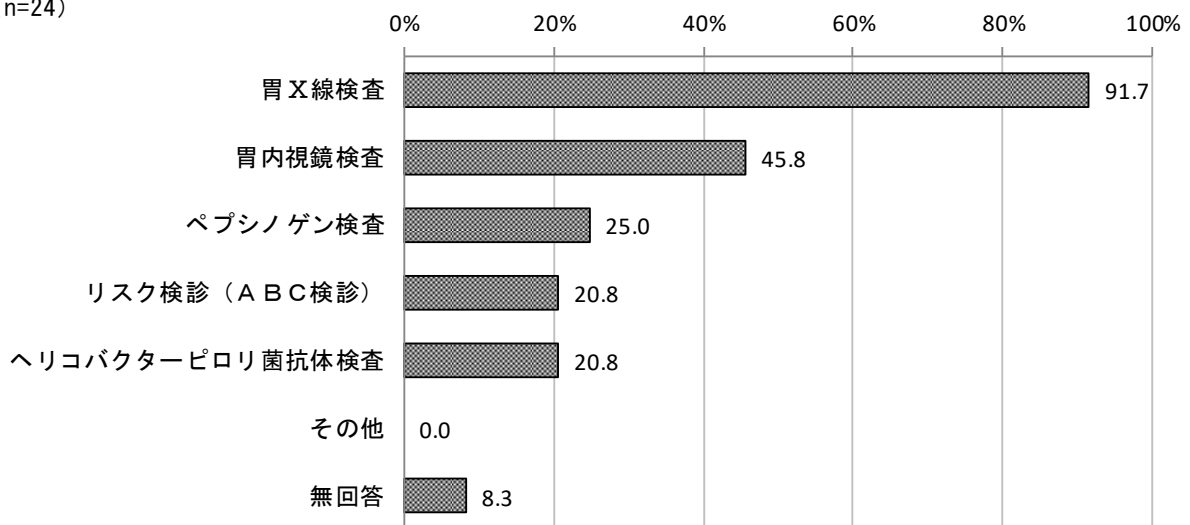
(n=29)



[被扶養者]

問3 (1) 検診方法（一次検診）

(n=24)

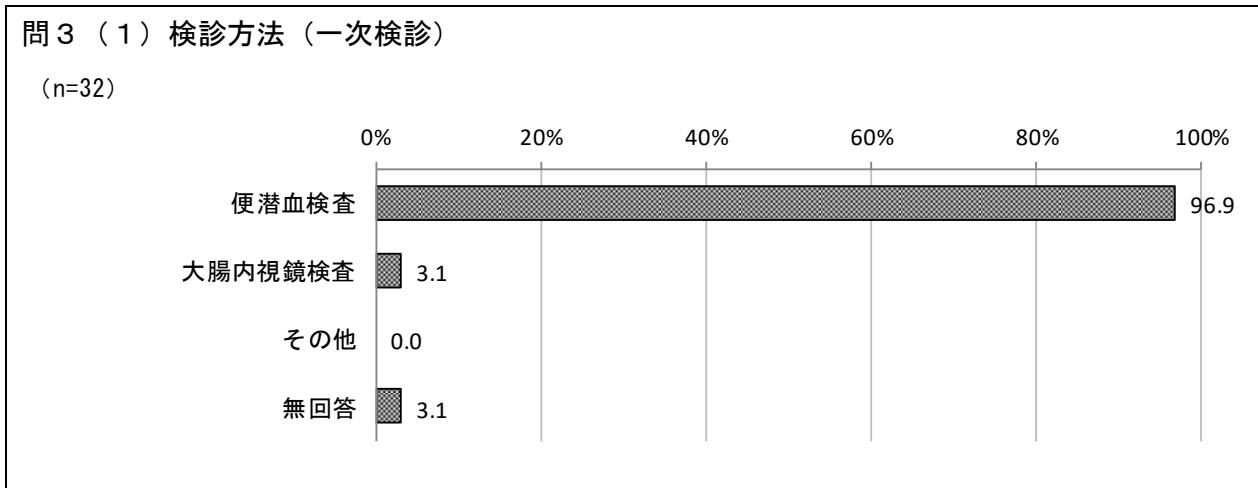


イ. 大腸がん

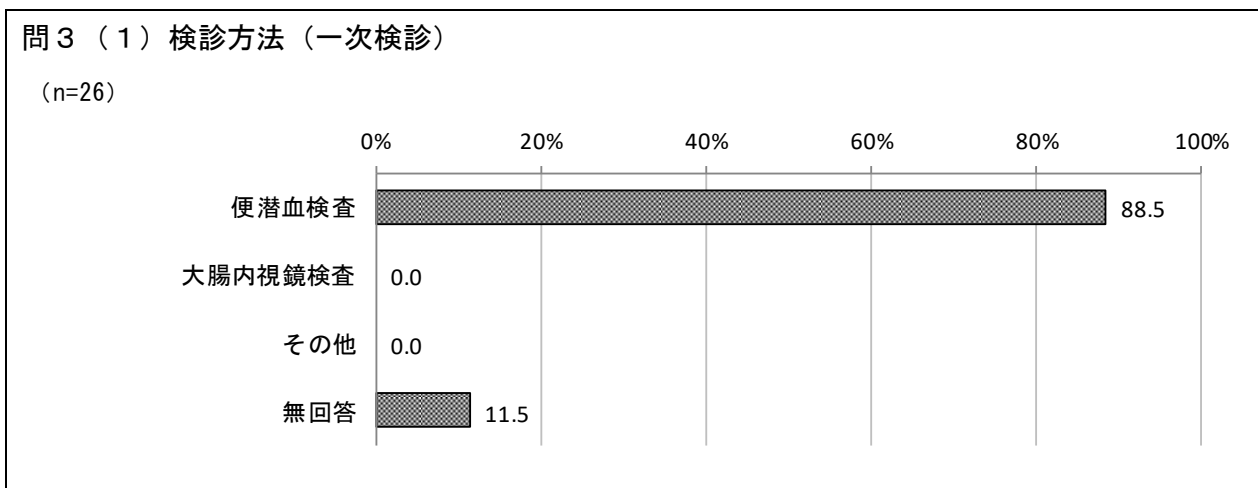
【全体の傾向】

大腸がん検診の（一次検診）の検査方法は、被保険者・被扶養者ともに「便潜血検査」がそれぞれ 96.9%、88.5%で最も多くとなっている。

[被保険者]



[被扶養者]

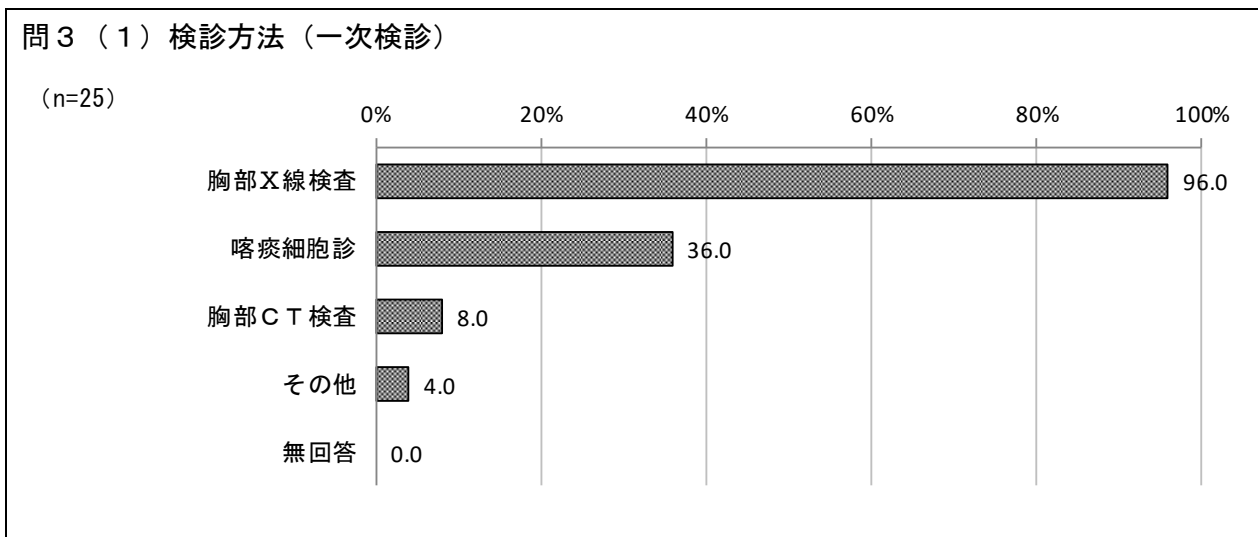


ウ. 肺がん

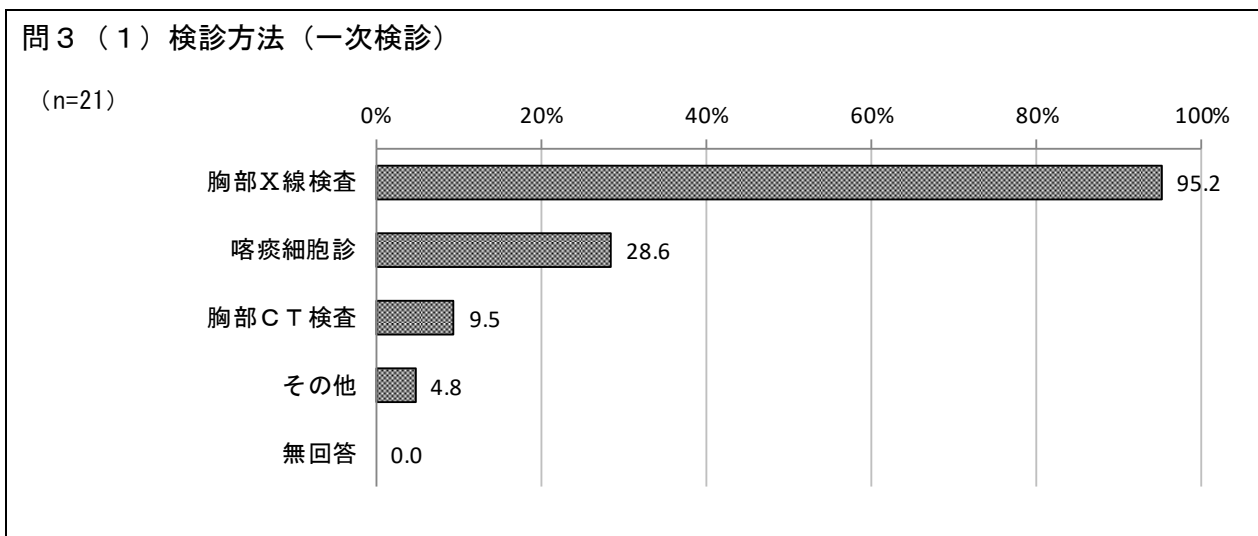
【全体の傾向】

肺がん検診の（一次検診）の検査方法は、被保険者・被扶養者ともに「胸部X線検査」がそれぞれ96.0%、95.2%で最も多く、次いで「喀痰細胞診」がそれぞれ36.0%、28.6%となっている。

[被保険者]



[被扶養者]

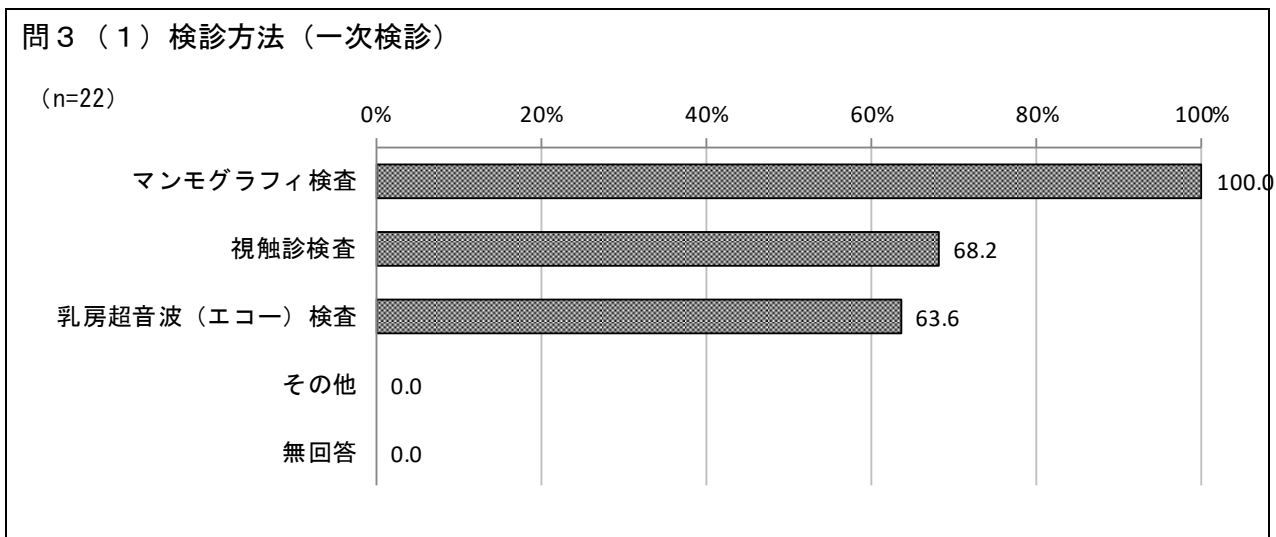


エ. 乳がん

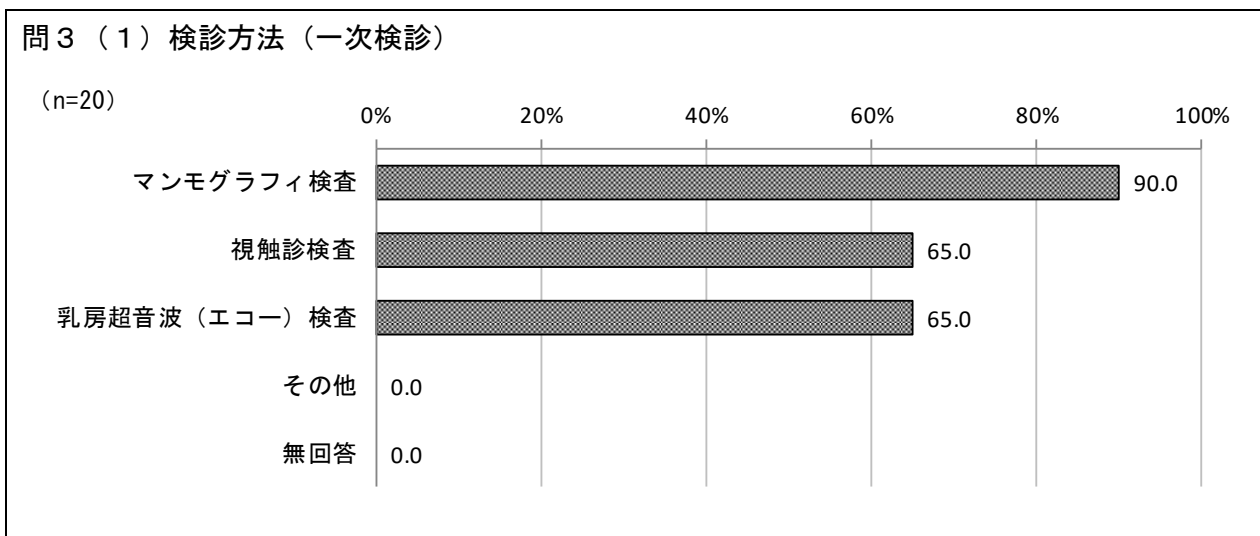
【全体の傾向】

乳がん検診の（一次検診）の検査方法は、被保険者・被扶養者ともに「マンモグラフィ検査」が最も多く、被保険者においては100.0%となっている。次いで「視触診検査」「乳房超音波（エコー）検査」が6割台となっている。

[被保険者]



[被扶養者]

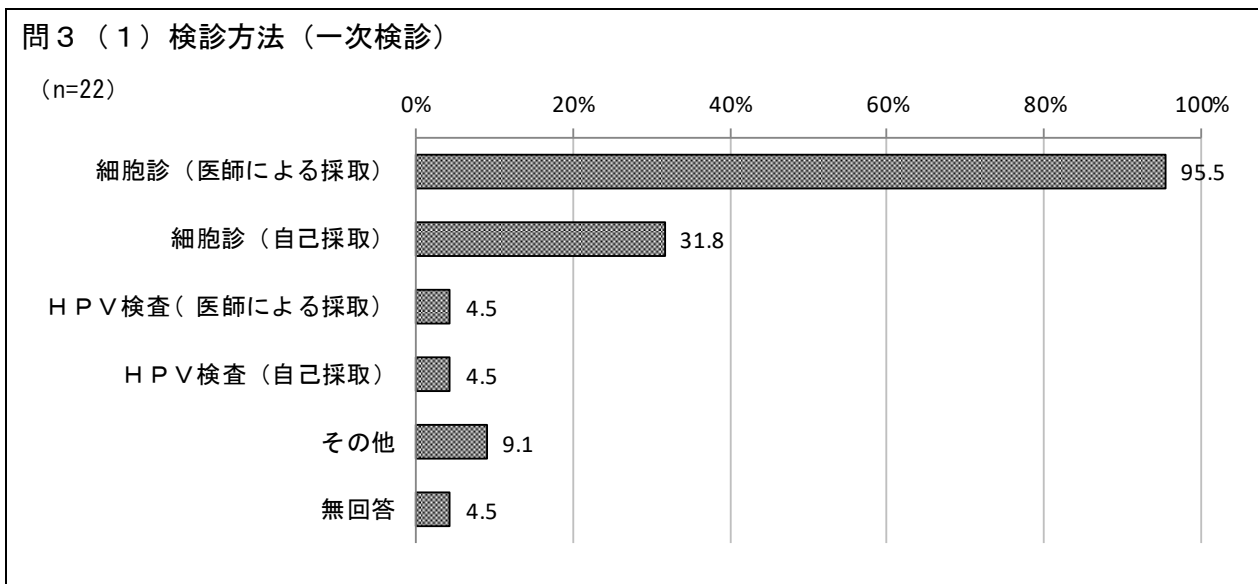


オ. 子宮頸がん

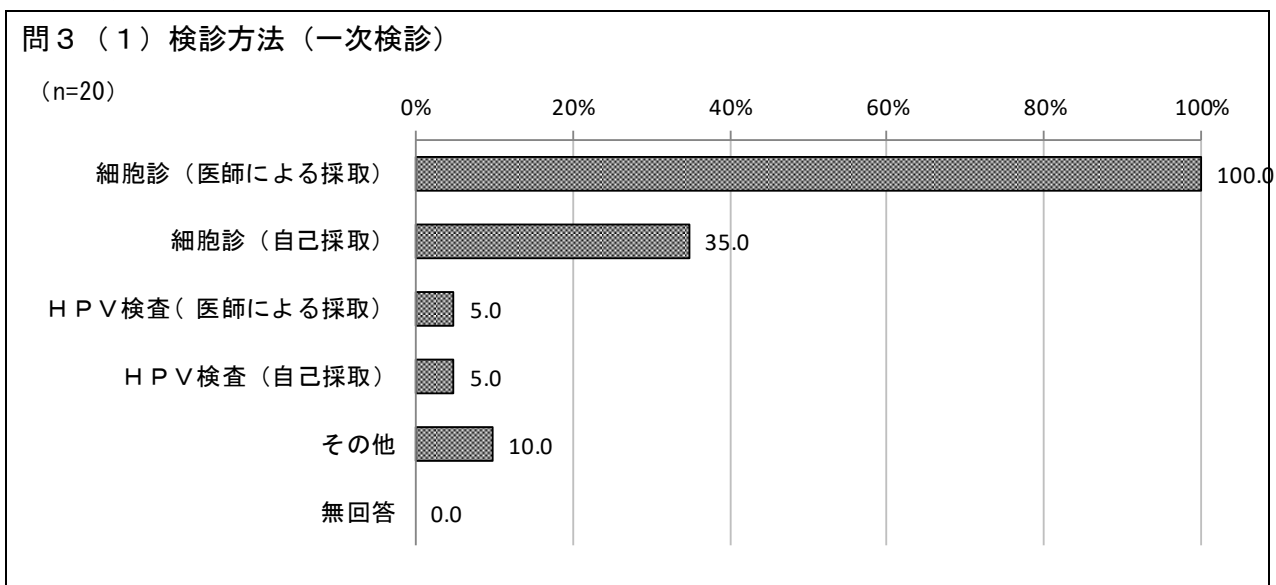
【全体の傾向】

子宮頸がん検診の（一次検診）の検査方法は、被保険者・被扶養者ともに「細胞診（医師による採取）」が最も多く、被扶養者では100.0%となっている。次いで「細胞診（自己採取）」がそれぞれ31.8%、35.0%となっている。

[被保険者]



[被扶養者]



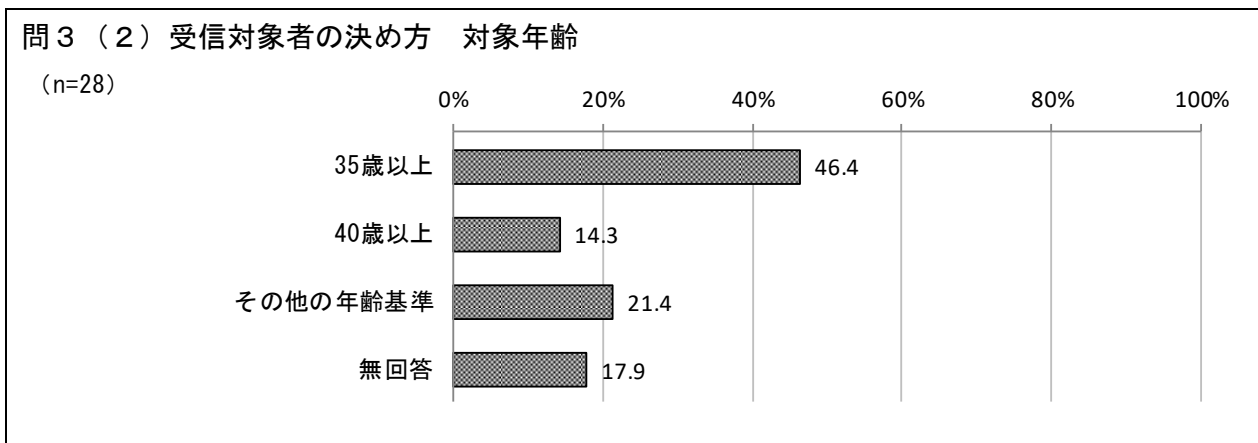
(2) 受診対象者の決め方

ア. 胃がん

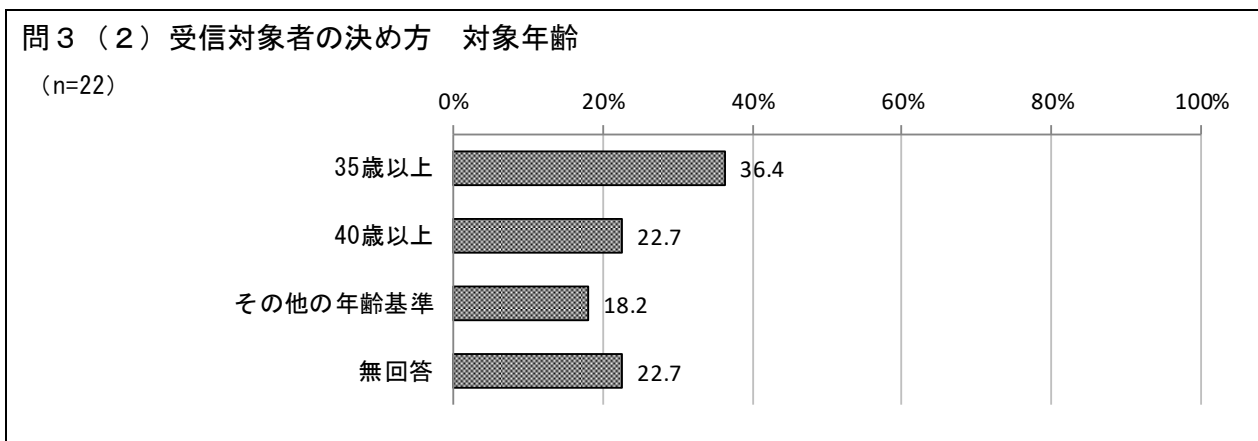
【全体の傾向】

胃がん検診の受診者の決め方について、対象年齢は、被保険者・被扶養者ともに「35歳以上」がそれぞれ46.4%、36.4%で最も多くなっている。

[被保険者]



[被扶養者]

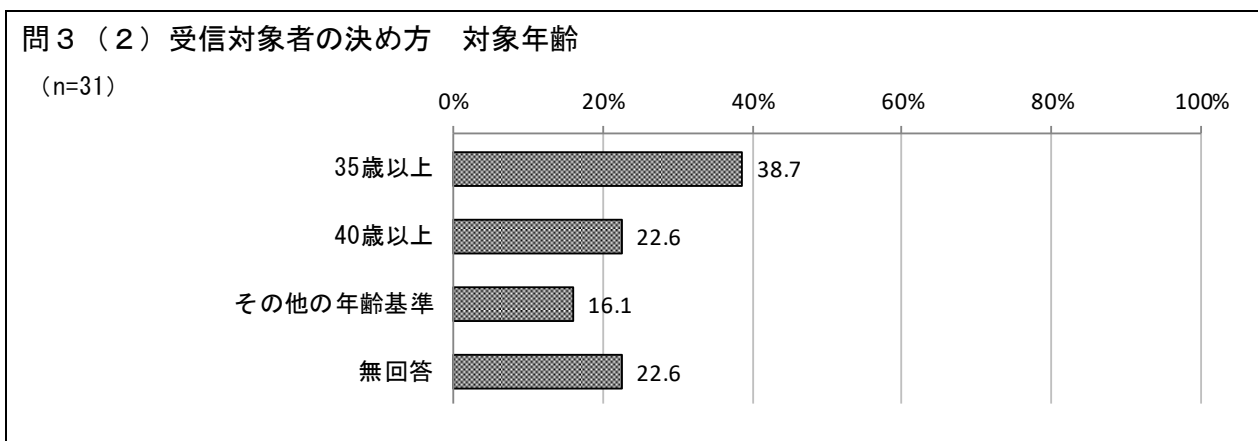


イ. 大腸がん

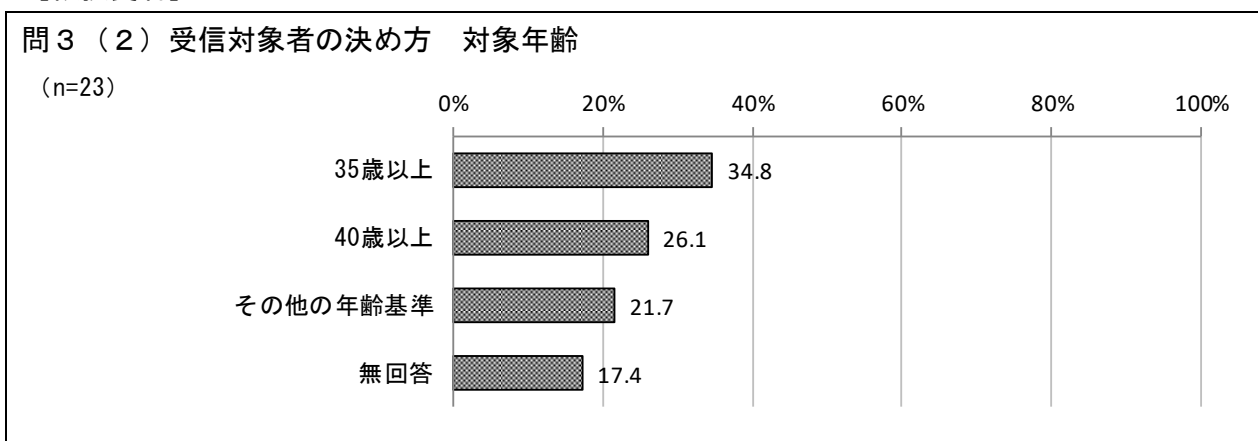
【全体の傾向】

大腸がん検診の受診者の決め方について、対象年齢は、被保険者・被扶養者ともに「35歳以上」がそれぞれ38.7%、34.8%で最も多くなっている。

[被保険者]



[被扶養者]

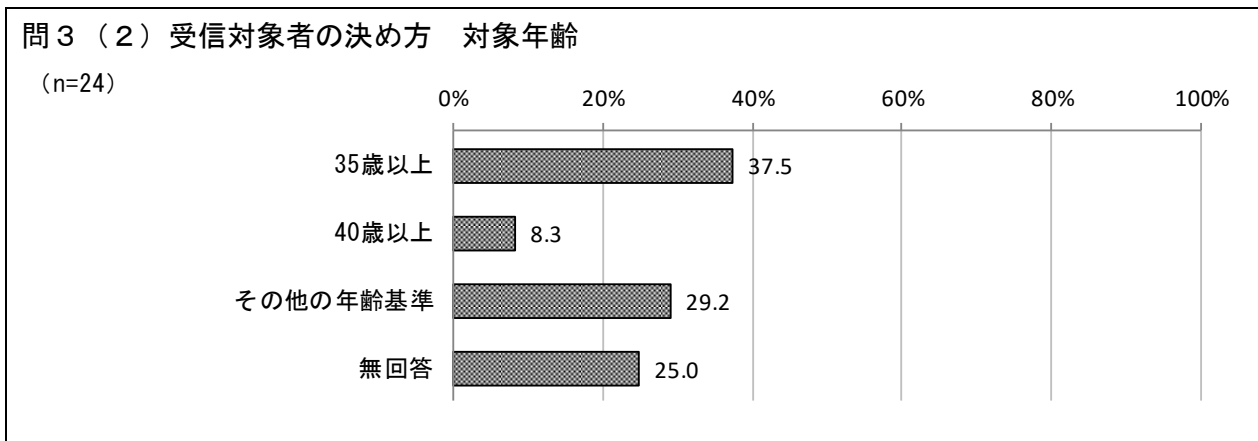


ウ. 肺がん

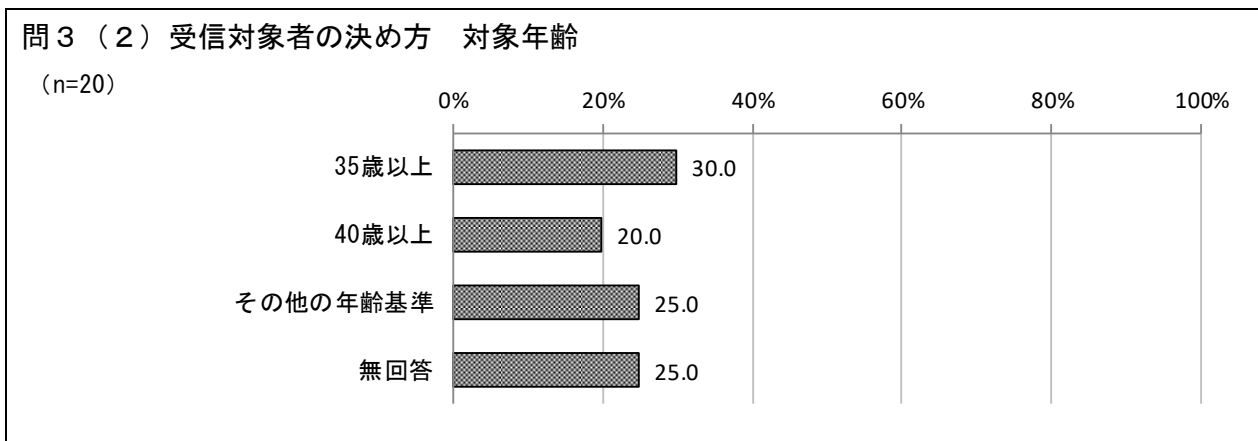
【全体の傾向】

肺がん検診の受診者の決め方について、対象年齢は、被保険者・被扶養者ともに「35歳以上」がそれぞれ37.5%、30.0%で最も多くなっている。

[被保険者]



[被扶養者]

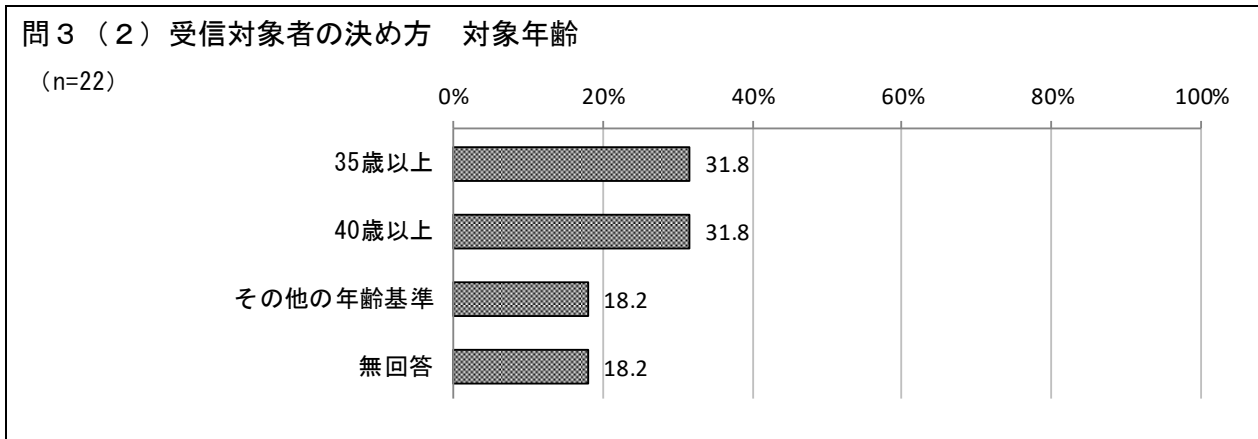


エ. 乳がん

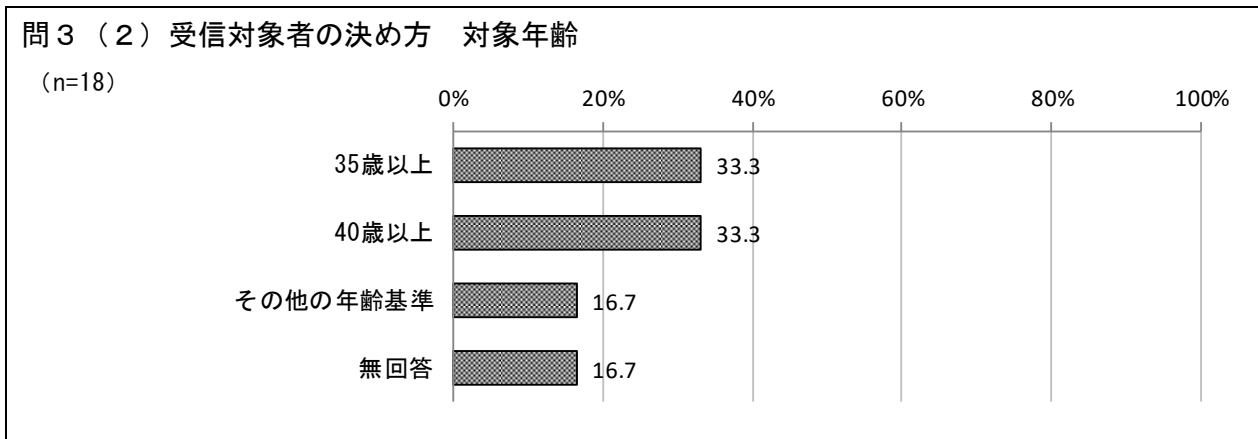
【全体の傾向】

乳がん検診の受診者の決め方について、対象年齢は、被保険者・被扶養者ともに「35歳以上」「40歳以上」がそれぞれ同率で31.8%、33.3%となっている。

[被保険者]



[被扶養者]

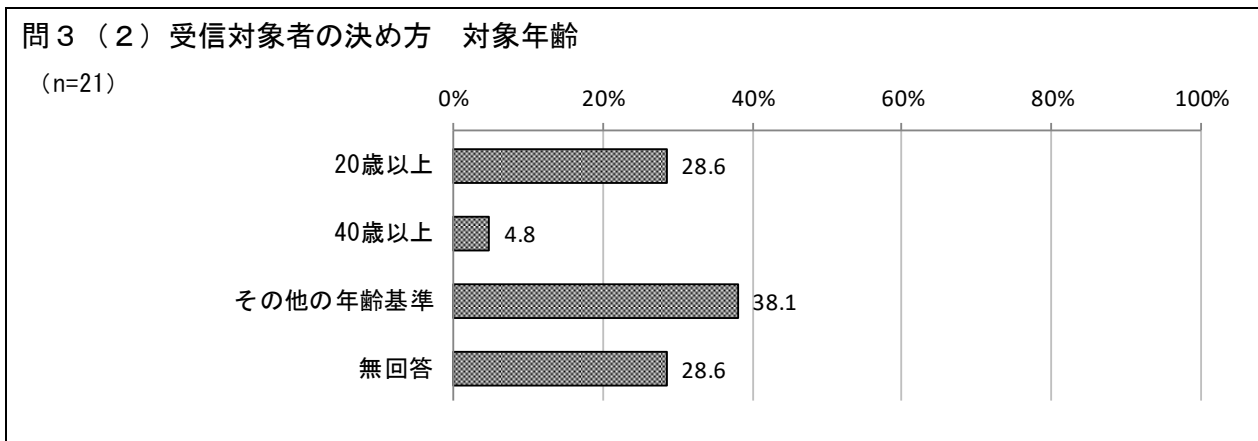


オ. 子宮頸がん

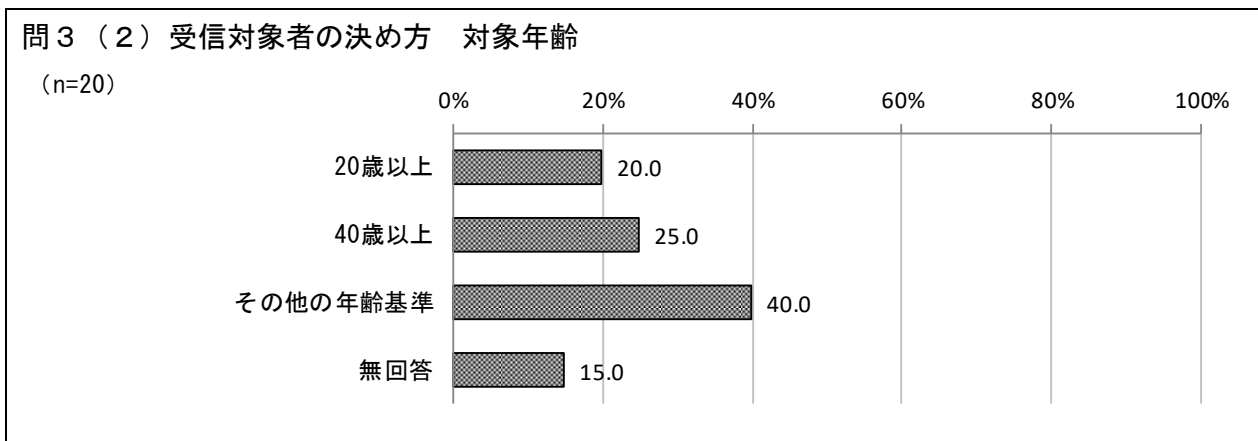
【全体の傾向】

子宮頸がん検診の受診者の決め方について、対象年齢は、被保険者・被扶養者ともに「その他の年齢基準」を決めている医療保険者が多くなっている。

[被保険者]



[被扶養者]



(3) がん検診受診率

ア. 各医療保険者のがん検診対象者における受診率

※対象者数・受診者数双方に記載のあった医療保険者を集計対象とし、各人数の総和から算出した。なお、それぞれ無回答であった箇所は計算から除いた。

【全体の傾向】

各がんの医療保険者でのがん検診対象者における受診率は、被保険者では〔肺がん〕が66.8%で最も高く、次いで〔大腸がん〕が63.8%となっている。被扶養者では、〔大腸がん〕が42.6%で最も高く、次いで〔肺がん〕が33.3%となっている。

〔胃がん〕〔乳がん〕〔子宮頸がん〕の受診率は、被保険者で3割台、被扶養者で1割台となっている。

〔被保険者〕

問3より 各医療保険者のがん検診対象者における受診率

検診の種類	医療保険者数	対象者数	受診者数	受診率
胃がん	16	96,369人	34,492人	35.8%
大腸がん	18	95,650人	61,008人	63.8%
肺がん	10	80,319人	53,685人	66.8%
乳がん	13	11,005人	3,751人	34.1%
子宮頸がん	10	13,621人	4,800人	35.2%

〔被扶養者〕

問3より 各医療保険者のがん検診対象者における受診率

検診の種類	医療保険者数	対象者数	受診者数	受診率
胃がん	11	45,182人	7,591人	16.8%
大腸がん	12	31,475人	13,402人	42.6%
肺がん	7	36,136人	12,025人	33.3%
乳がん	7	22,229人	3,994人	18.0%
子宮頸がん	7	28,447人	4,824人	17.0%

イ. がん検診対象年齢・性別における受診率

※問1 40歳以上の男女（20歳以上の女性）の人数・受診者数双方に記載のあった医療保険者を集計対象とし、各人数の総和から算出した。なお、それぞれ無回答であった箇所は計算から除いた。

【全体の傾向】

がん検診対象年齢・性別における受診率は、被保険者・被扶養者ともに「肺がん」が最も高くなっている。被扶養者では「胃がん」が1～2割台と他のがんに比べて受診率が低い。

「乳がん」「子宮頸がん」の受診率は、被保険者・被扶養者ともに1～2割台と他のがんに比べて受診率が低い。

【被保険者】

問3より がん検診対象年齢・性別における受診率

検診の種類	対象年齢・性別	医療保険者数	対象者数	受診者数	受診率
胃がん	40歳以上男性	8	63,000人	26,651人	42.3%
	40歳以上女性	7	15,671人	9,960人	63.6%
大腸がん	40歳以上男性	8	53,859人	34,203人	63.5%
	40歳以上女性	7	15,856人	10,129人	63.9%
肺がん	40歳以上男性	6	52,980人	35,980人	67.9%
	40歳以上女性	5	15,037人	10,094人	67.1%
乳がん	40歳以上女性	6	5,541人	1,341人	24.2%
子宮頸がん	20歳以上女性	5	9,524人	1,990人	20.9%

【被扶養者】

問3より がん検診対象年齢・性別における受診率

検診の種類	対象年齢・性別	医療保険者数	対象者数	受診者数	受診率
胃がん	40歳以上男性	5	16,866人	3,568人	21.2%
	40歳以上女性	4	6,576人	696人	10.6%
大腸がん	40歳以上男性	5	16,780人	7,182人	42.8%
	40歳以上女性	4	1,239人	712人	57.5%
肺がん	40歳以上男性	3	16,669人	7,685人	46.1%
	40歳以上女性	2	814人	683人	83.9%
乳がん	40歳以上女性	4	2,172人	624人	28.7%
子宮頸がん	20歳以上女性	4	3,164人	619人	19.6%

4 がん検診の周知

問4 貴保険者のがん検診の周知についてお答えください。

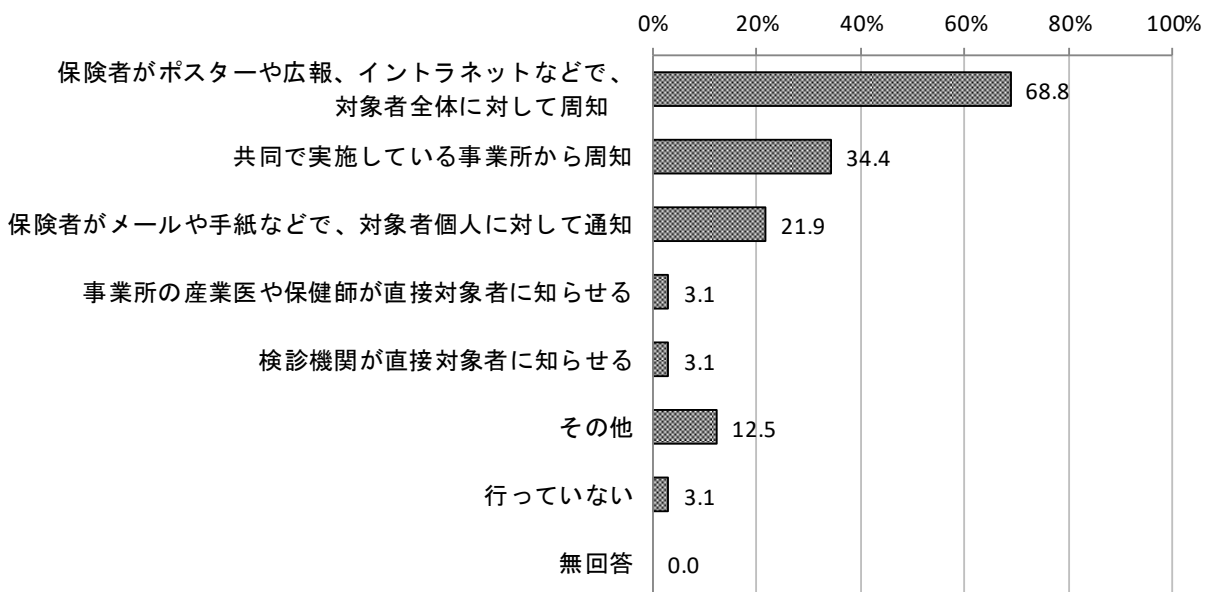
(1) がん検診の周知の方法

【全体の傾向】

がん検診の周知の方法を伺ったところ、「保険者がポスターや広報、イントラネットなどで、対象者全体に対して周知」が68.8%で最も多く、次いで「共同で実施している事業所から周知」が34.4%などとなっている。「行っていない」は3.1%となっている。

問4 (1) がん検診の周知はどのように行っていますか (該当すべてに○)

(n=32)



【医療保険者の種別の傾向】

医療保険者の種別でみると、周知の方法は【共済組合】では「共同で実施している事業所から周知」が、【国民健康保険組合】【組合健康保険 計】では「保険者がポスターや広報、イントラネットなどで、対象者全体に対して周知」が7～8割台で最も高くなっている。

上段：件数、下段：構成比 (%)

医療保険者種別	件数	構成比 (%)	共同で実施している事業所から周知	保険者がメールや手紙などで、対象者個人に対して通知	事業所の産業医や保健師が直接対象者に知らせる	検診機関が直接対象者に知らせる	その他	行っていない	無回答
国民健康保険組合	6	100.0	-	-	-	-	2	-	-
全国健康保険協会管掌健康保険 (協会けんぽ)	1	100.0	-	-	-	-	1	-	-
共済組合	4	100.0	3	-	-	-	-	-	-
組合健康保険 計	21	100.0	8	7	1	1	1	1	-
			38.1	33.3	4.8	4.8	4.8	4.8	-

5 結果の把握状況

問5 貴保険者のがん検診一次検診結果の把握状況についてお答えください。

(1) 結果の把握状況

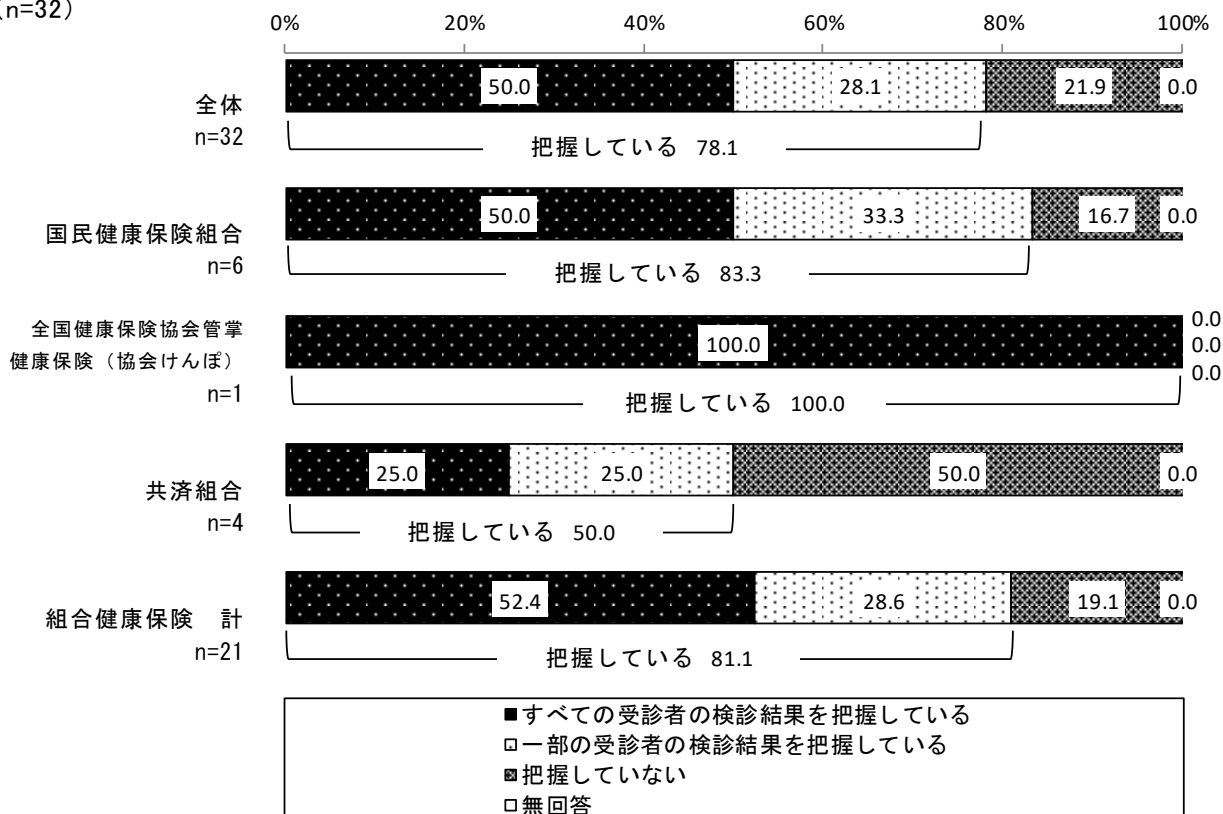
【全体の傾向】

がん検診の受診結果を<把握している>医療保険者は78.1%で、うち「すべての受診者の検診結果を把握している」は50.0%、「一部の受診者の検診結果を把握している」は28.1%となっている。

医療保険者の種別でみると、すべての医療保険者で<把握している>が半数以上となっている。

問5 (1) がん検診の個人ごとの結果について把握していますか (該当1つに○)

(n=32)



(2) 結果の把握方法

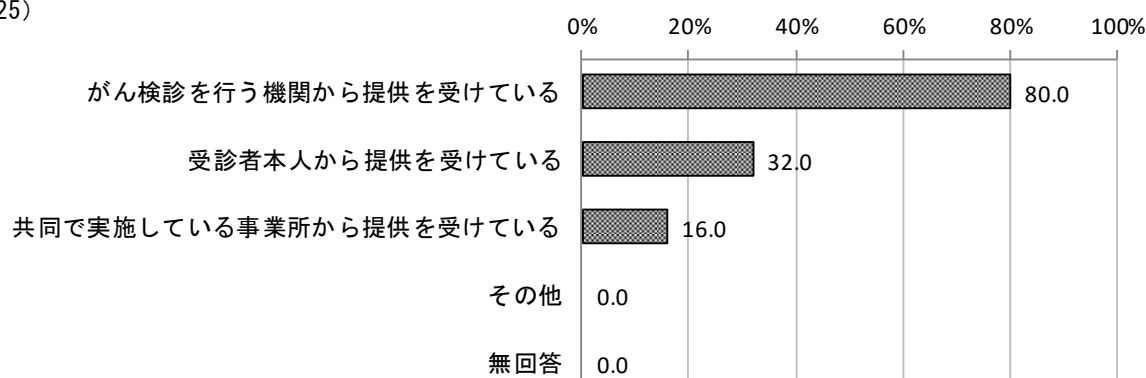
【全体の傾向】

がん検診の受診結果の把握方法は、「がん検診を行う機関から提供を受けている」が80.0%で最も多く、次いで「受診者本人から提供を受けている」が32.0%となっている。

問5(1)で「すべての受診者の検診結果を把握している」、「一部の受診者の検診結果を把握している」に○をつけた方

問5(2) がん検診の個人ごとの結果はどのように把握していますか(該当すべてに○)

(n=25)



(3) 結果を把握していない理由

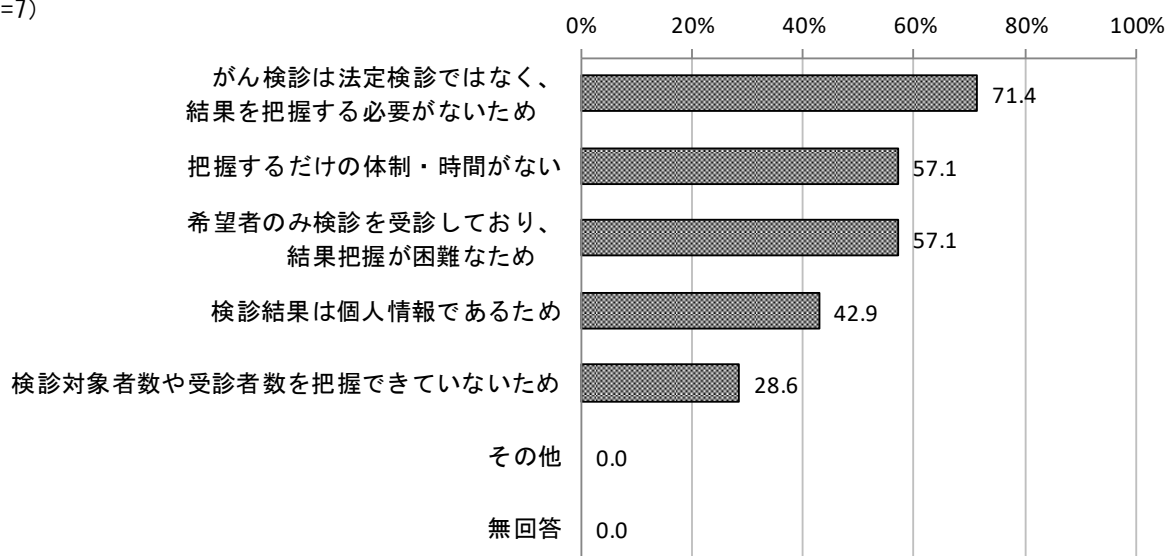
【全体の傾向】

がん検診の受診結果を把握していない理由は、「がん検診は法定検診ではなく、結果を把握する必要がないため」が71.4%で最も多く、次いで「把握するだけの体制・時間がない」「希望者のみ検診を受診しており、結果把握が困難なため」が同率で57.1%となっている。

問5(1)で「把握していない」に○をつけた方

問5(3) がん検診の個人ごとの結果を把握していない理由を教えてください(該当すべてに○)

(n=7)



6 がん検診未受診者への対応

(1) がん検診未受診者への対応の有無

【全体の傾向】

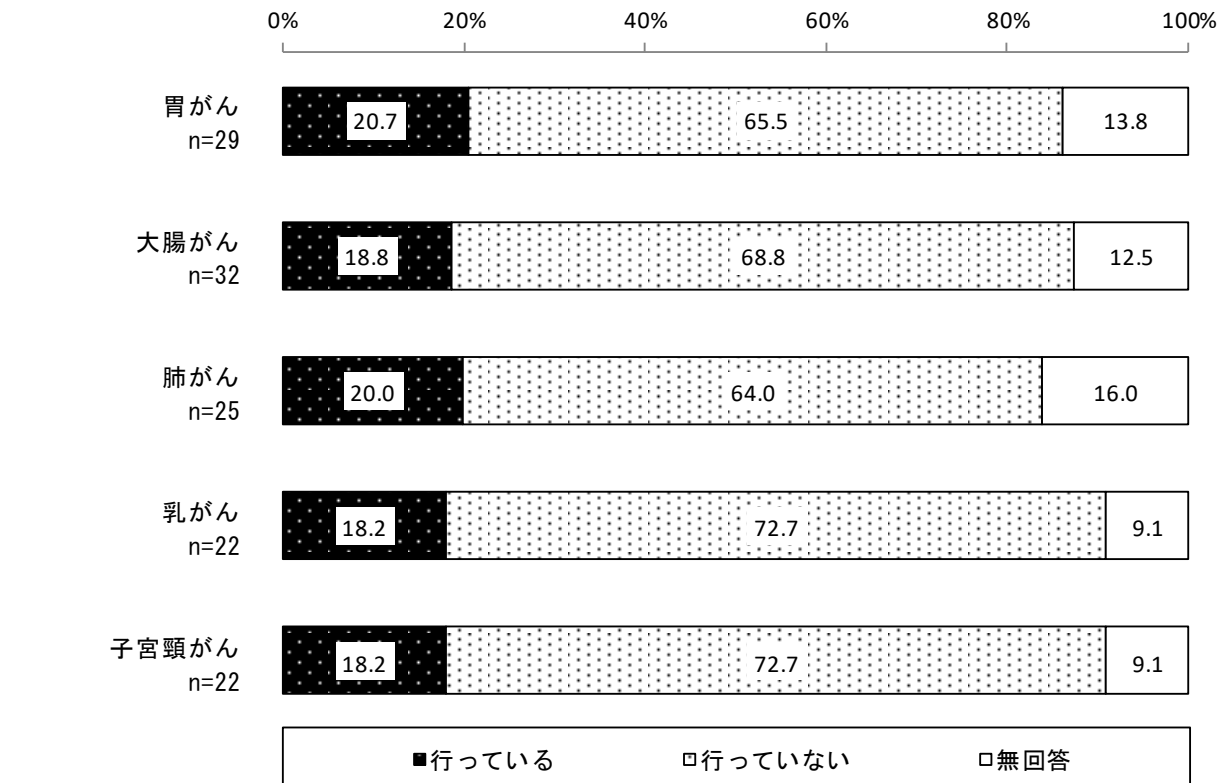
がん検診の未受診者に対して再度のお知らせを「行っている」医療保険者は、被保険者・被扶養者ともに、5つのすべてのがんにおいて2割前後となっている。

〔被保険者〕

問6 貴保険者におけるがん検診未受診者への対応についてお答えください。

(1) がん検診の未受診者に対して再度のお知らせ（受診勧奨）を行っていますか。

(各がんについて、該当1つに○)

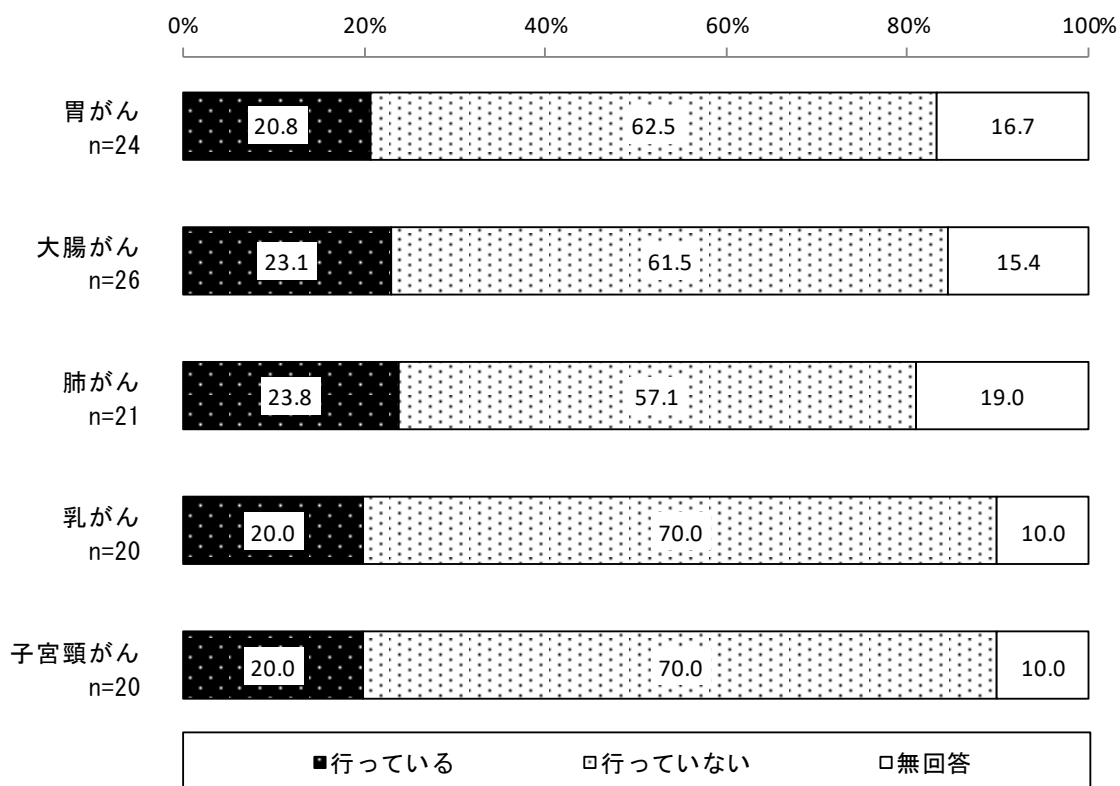


[被扶養者]

問6 貴保険者におけるがん検診未受診者への対応についてお答えください。

(1) がん検診の未受診者に対して再度のお知らせ(受診勧奨)を行っていますか。

(各がんについて、該当1つに○)



7 がん検診の要精検者の把握状況

問7 貴保険者のがん検診において、精密検査が必要となった方（要精検者）の把握状況についてお答えください。

(1) 精密検査が必要となった方（要精検者）の把握状況

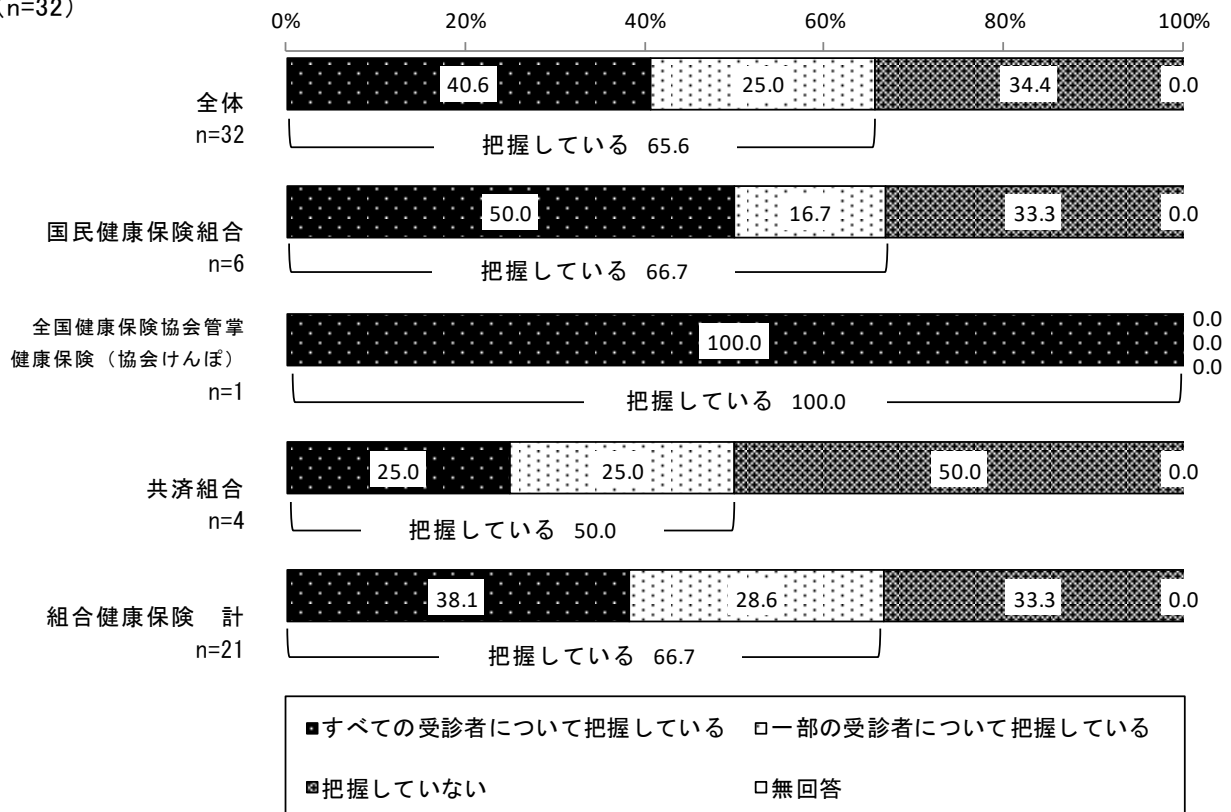
【全体の傾向】

がん検診の要精検者を<把握している>医療保険者は65.6%で、うち「すべての受診者を把握している」は40.6%、「一部の受診者について把握している」は25.0%となっている。

医療保険者の種別でみると、すべての医療保険者で<把握している>が半数以上となっている。

問7 (1) がん検診の要精検者を把握していますか（該当1つに○）

(n=32)



(2) 要精検者の把握方法

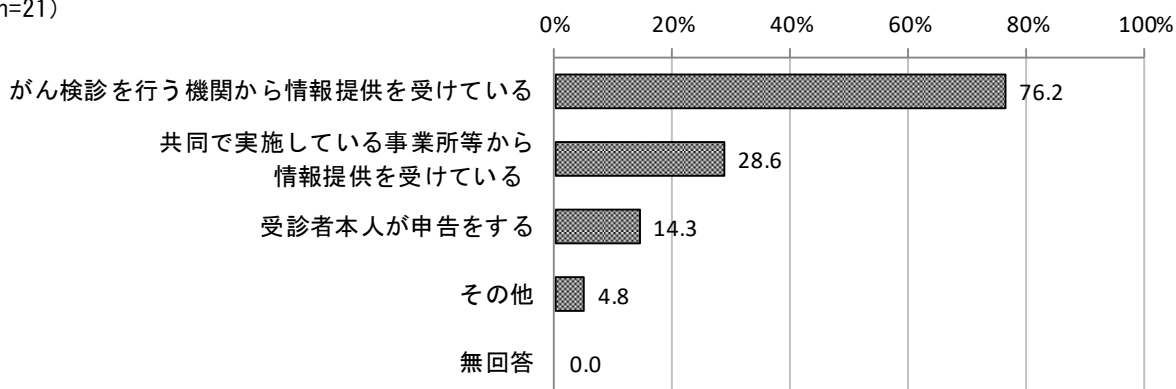
【全体の傾向】

がん検診の要精検者の把握方法は、「がん検診を行う機関から提供を受けている」が76.2%で最も多く、次いで「共同で実施している事業所等から情報提供を受けている」が28.6%となっている。

問7(1)で「すべての受診者について把握している」、「一部の受診者について把握している」に○をつけた方

問7(2) がん検診の要精検者をどのように把握していますか(該当すべてに○)

(n=21)



(3) 要精検者を把握していない理由

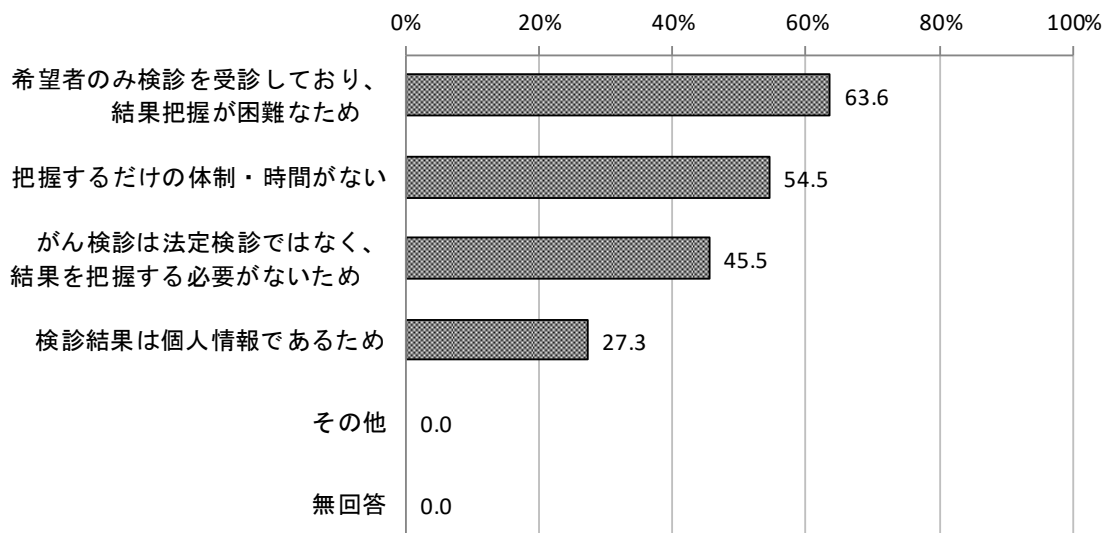
【全体の傾向】

がん検診の要精検者を把握していない理由は、「希望者のみ検診を受診しており、結果把握が困難なため」が63.6%で最も多く、次いで「把握するだけの体制・時間がない」が54.5%などとなっている。

問6(1)で「把握していない」に○をつけた方

問6(3) がん検診の要精検者を把握していない理由をお答えください(該当すべてに○)

(n=11)



8 要精検者への受診を促す取組

問8 貴保険者においてがん検診の要精検者に対して受診を促す取組の状況についてお答えください。

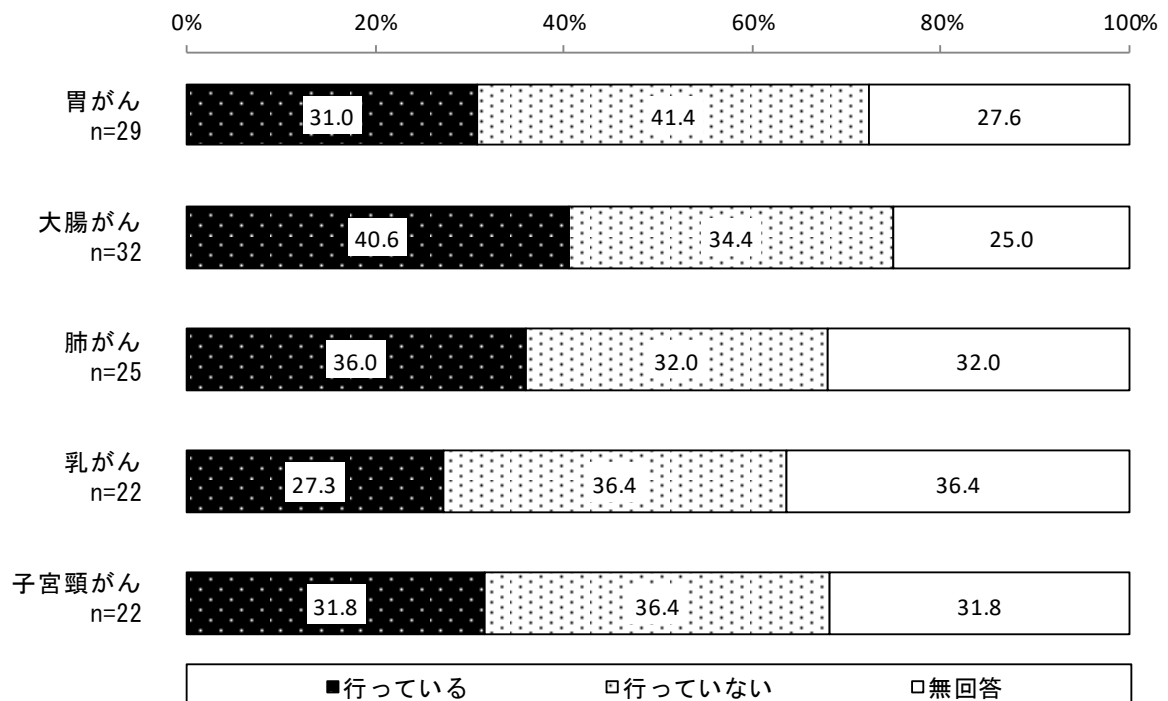
(1) 要精検者に対して受診を促す取組の実施の有無

【全体の傾向】

がん検診の要精検者に対して受診を促す取組を行っているか伺ったところ、「行っている」は被保険者・被扶養者ともに〔大腸がん〕が最も多く、それぞれ40.6%、34.6%などとなっている。被保険者では〔胃がん〕〔肺がん〕〔子宮頸がん〕で3割台、〔乳がん〕が2割台となっている。被扶養者では〔胃がん〕〔肺がん〕〔乳がん〕〔子宮頸がん〕は2割台となっている。

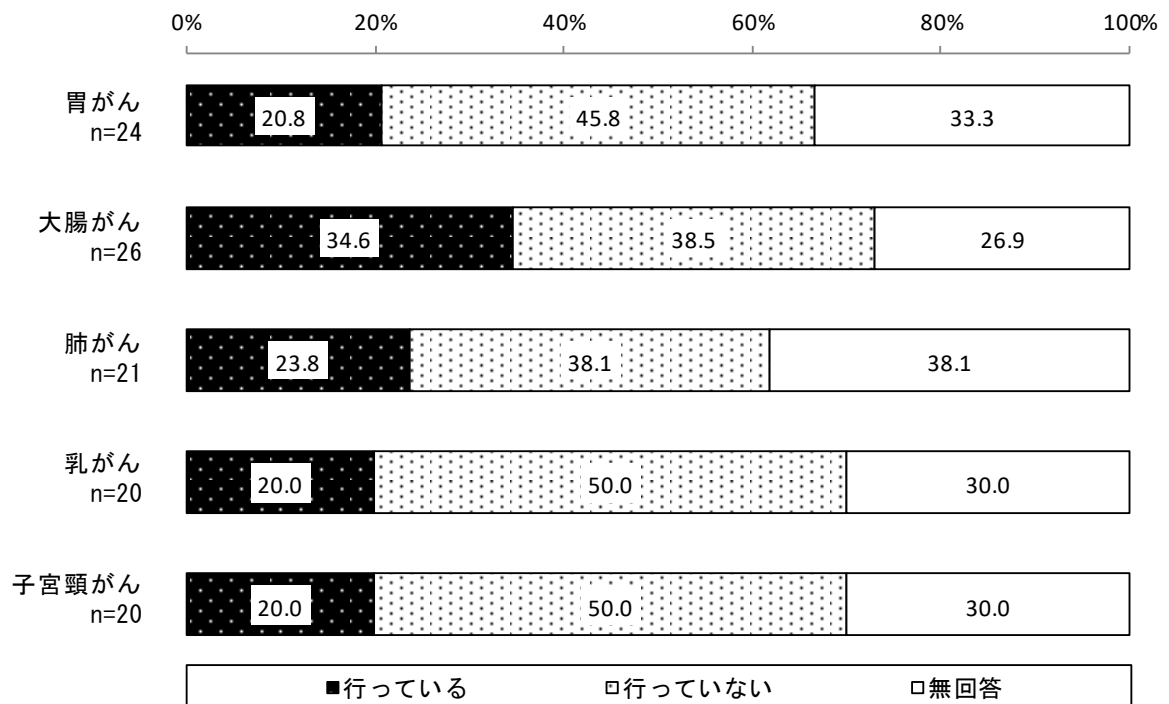
〔被保険者〕

問8 (1) 要精検者に対し、検査結果通知のほかに精密検査の受診を促す取組を行っていますか。(各がんについて、該当1つに○)



[被扶養者]

問 8 (1) 要精検者に対し、検査結果通知のほかに精密検査の受診を促す取組を行っていますか。(各がんについて、該当1つに○)



(2) 精密検査の受診勧奨方法

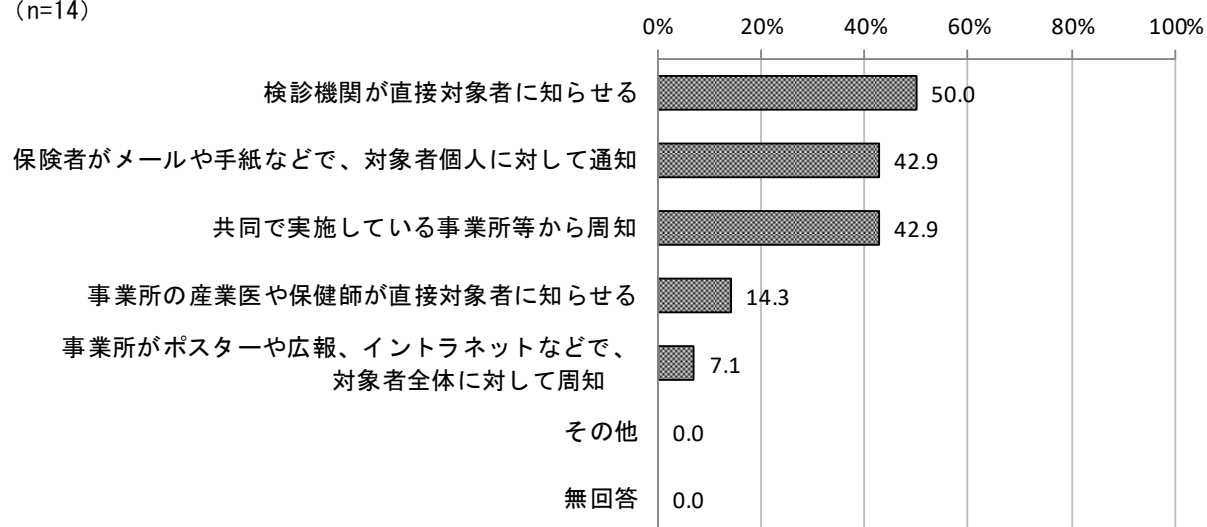
【全体の傾向】

実施している受診勧奨方法は、「検診機関が直接対象者に知らせる」が50.0%で最も多く、次いで「保険者がメールや手紙などで、対象者個人に対して通知」「共同で実施している事業所等から周知」が同率で42.9%などとなっている。

問8 (1) のがん検診のいずれかで「行っている」に○をつけた方

問8 (2) 要精検者への精密検査の受診勧奨の方法を教えてください (該当すべてに○)

(n=14)



9 がん検診の受診者を増やす取組

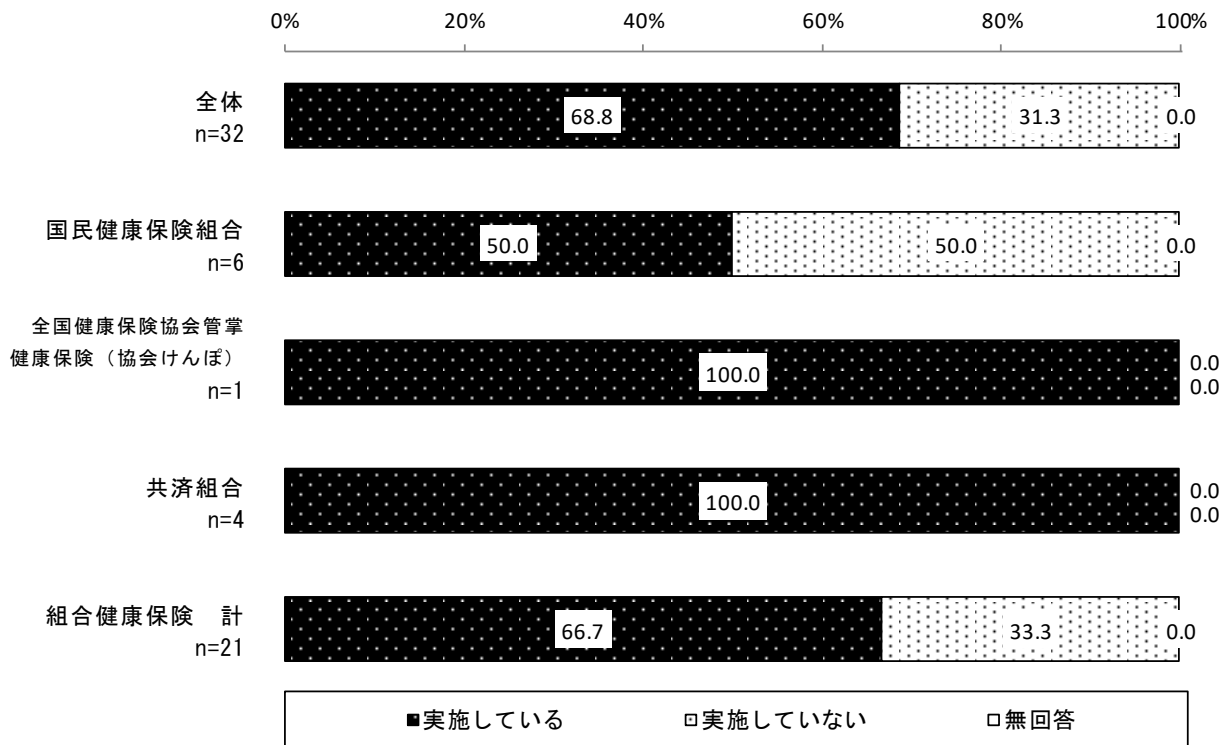
問9 貴保険者で実施しているがん検診の受診者を増やす取組についてお答えください。

(1) がん検診の受診者を増やす取組の実施状況

【全体の傾向】

がん検診の受診者を増やす取組を「実施している」医療保険者は 68.8%、「実施していない」は 31.3%となっている。

問9 (1) がん検診の受診者を増やす取組を実施していますか (該当1つに○)



(2) がん検診の受診者を増やす取組方法

【全体の傾向】

実施しているがん検診の受診者を増やす取組は「検診受診費用の補助」が90.9%で最も多く、次いで「広報誌やホームページ等を使った被保険者全体への受診勧奨や情報提供」が63.6%、「特定検診とがん検診の同時実施」が54.5%などとなっている。

また、最も効果があると思われるものにおいても「検診受診費用の補助」が27.3%で最も多くなっている。

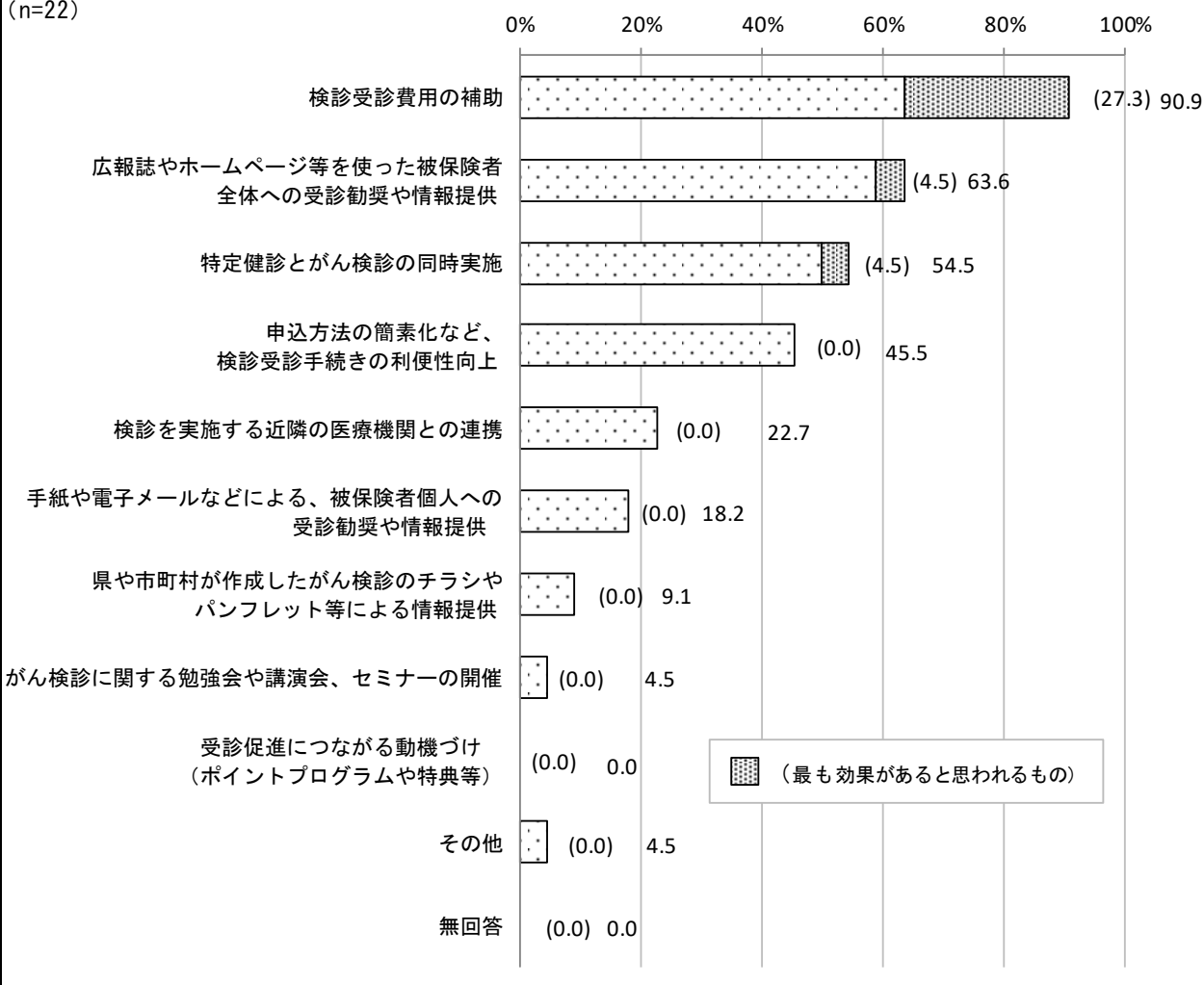
問9 (1) で「実施している」に○をつけた方

問9 (2) 実施しているがん検診の受診者を増やす取組について教えてください。

(該当すべてに○)

そのうち最も効果があると思われるものに1つ◎をつけてください

(n=22)



10 がん患者への支援の取組

(1) がん患者への支援の取組

【全体の傾向】

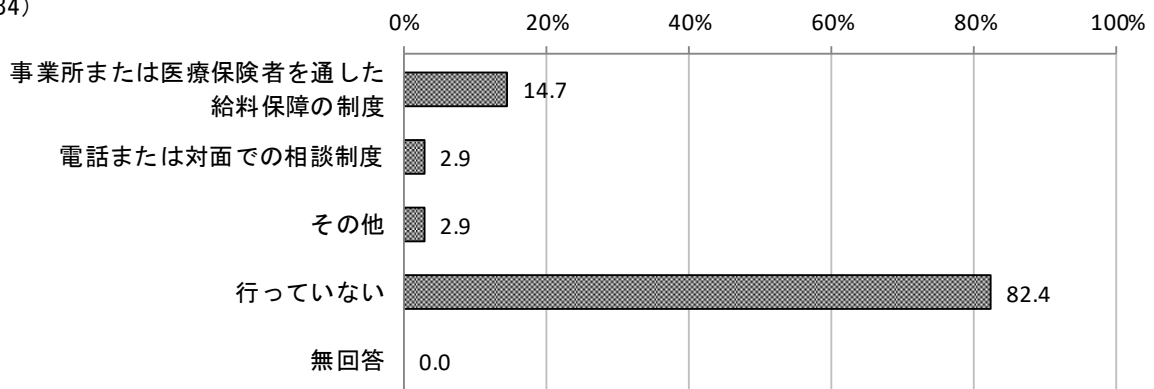
がん患者への支援の取組について、＜何らかの取組を行っている＞医療保険者は17.6%で、「事業所または医療保険者を通じた給料保障の制度」が14.7%で最も多く、「電話または対面での相談制度」が2.9%となっている。

「行っていない」は82.4%となっている。

問10 貴保険者のがん患者への支援の取組についてお答えください。

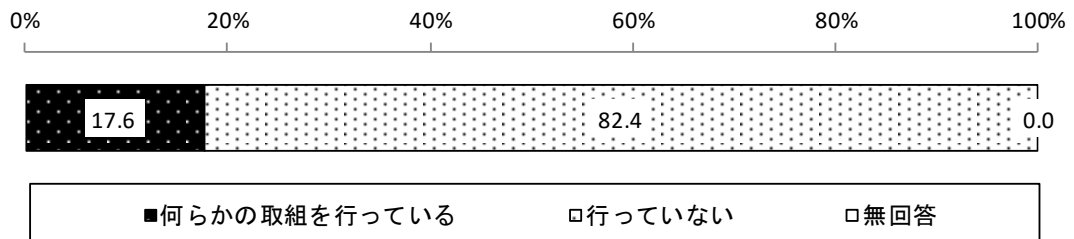
(1) がん患者への支援の取組についてお答えください（該当すべてに○）

(n=34)



問9 (1) より がん患者への支援の取組の有無*

(n=34)



※＜何らかの取組を行っている＞は、問9 (1) において「事業所または医療保険者を通じた給料保障の制度」から「その他」に1つ以上の選択があった事業所数より算出。

【医療保険者の種別】

上段：件数、下段：構成比 (%)

	医療保険者数	行何つらてかいる取組を	何らかの取組を行っている			行っていない	無回答
			障のし制度	通のた給料保を	医療保所またをは		
国民健康保険組合	6 100.0	1 16.7	-	-	1 16.7	5 83.3	-
全国健康保険協会管掌健康保険 (協会けんぽ)	1 100.0	-	-	-	-	1 100.0	-
共済組合	4 100.0	2 50.0	2 50.0	1 25.0	-	2 50.0	-
組合健康保険 計	23 100.0	3 13.0	3 13.0	-	-	20 87.0	-

11 県や市町村への要望

(1) 県や市町村への要望

【全体の傾向】

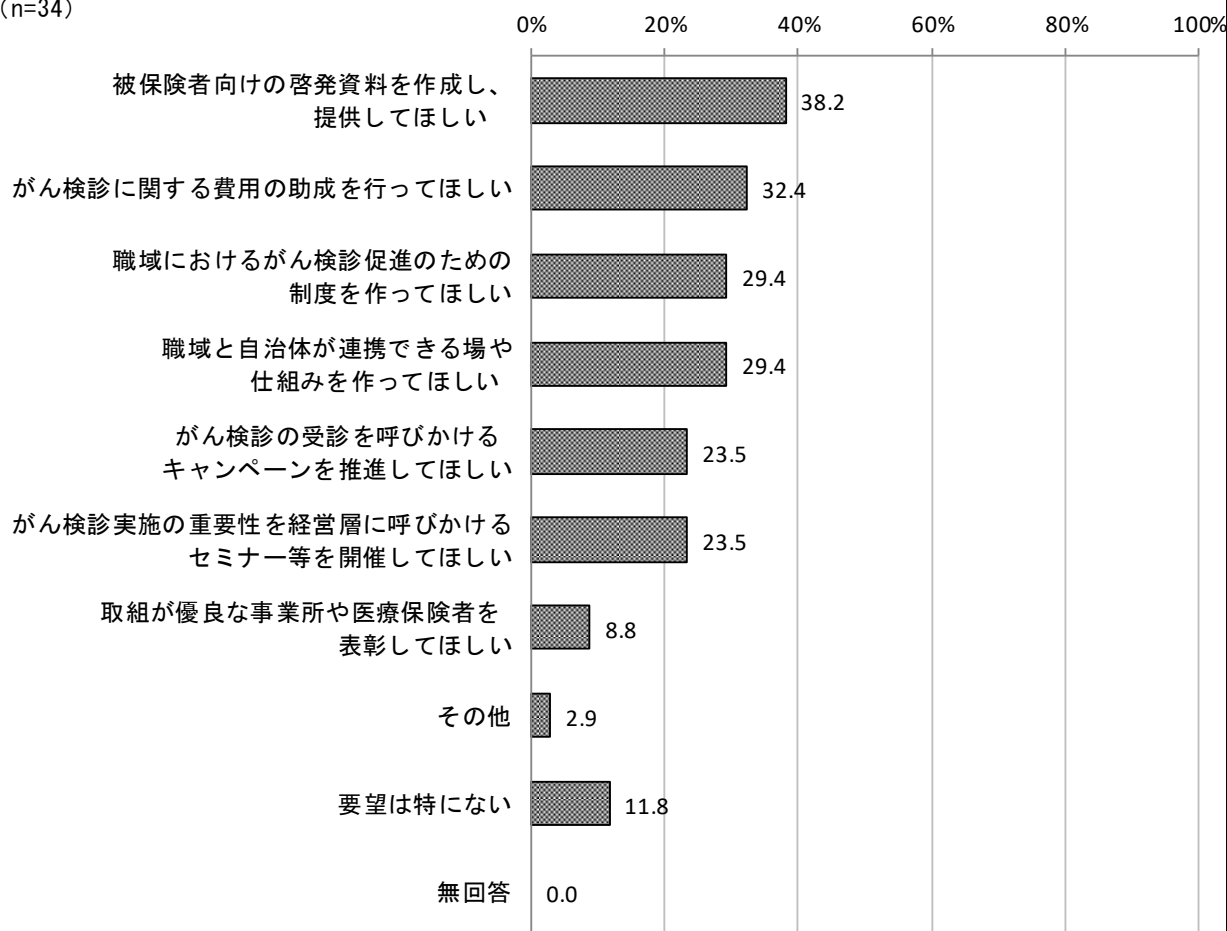
がん検診に関する県や市町村への要望は、「被保険者向けの啓発資料を作成し、提供してほしい」が38.2%で最も多く、次いで「がん検診に関する費用の助成を行ってほしい」が32.4%、「職域におけるがん検診促進のための制度を作ってほしい」「職域と自治体が連携できる場や仕組みを作ってほしい」が同率で29.4%などとなっている。

「要望はとくにない」は11.8%となっている。

問11 がん検診に関する県や市町村に対する要望についてお答えください。

(1) がん検診に関する県や市町村に対する要望についてお答えください（該当すべてに○）

(n=34)



12 埼玉県のがん検診受診率

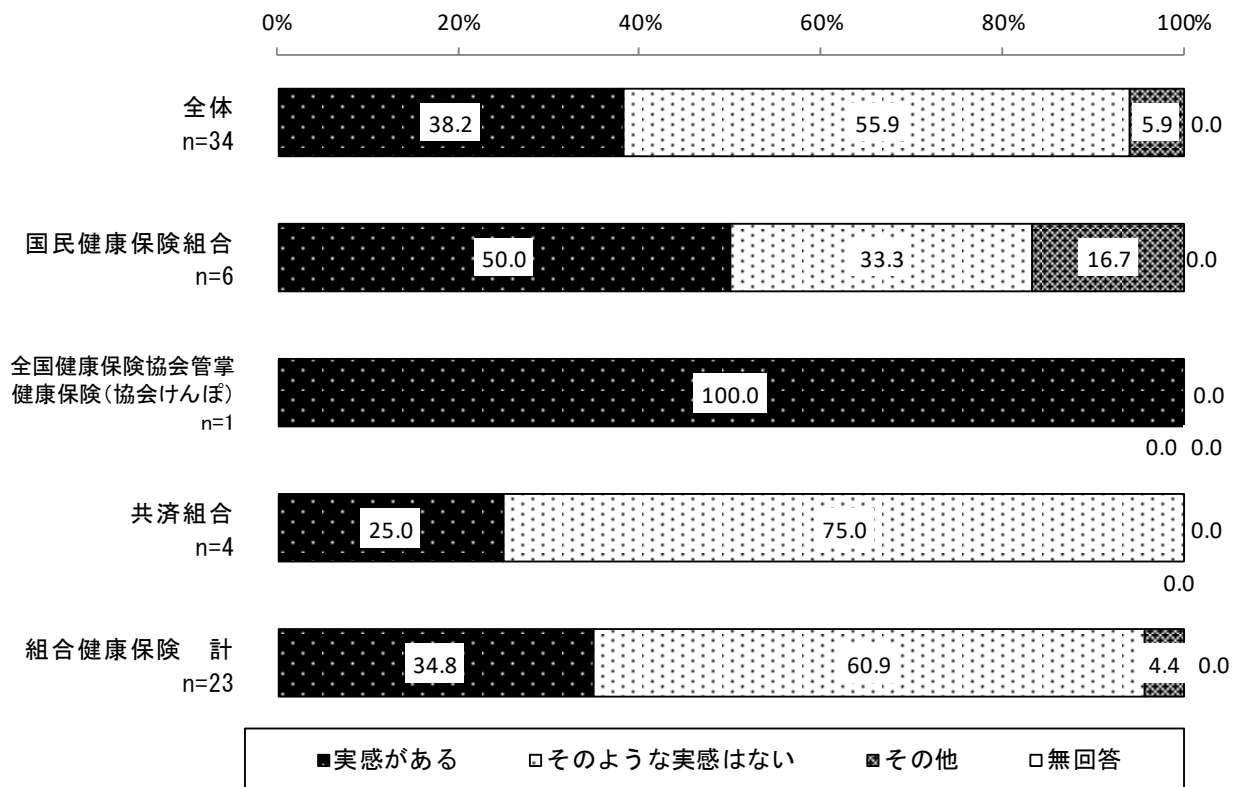
問 12 埼玉県のがん検診受診率についてお答えください。

(1) 埼玉県のがん検診受診率について

【全体の傾向】

埼玉県のがん検診受診率は全国平均を下回っていること、特に40歳代男性が低い傾向にあることについて「実感がある」事業所は38.2%となっている。「そのような実感はない」が55.9%と半数以上となっている。

問 12 (1) 埼玉県のがん検診受診率は全国平均を下回っています。特に40歳代男性が低い傾向にあります。このことについてどのように感じるかお答えください。(該当1つに○)



(2) 埼玉県で40歳代男性のがん検診率が低い理由

【全体の傾向】

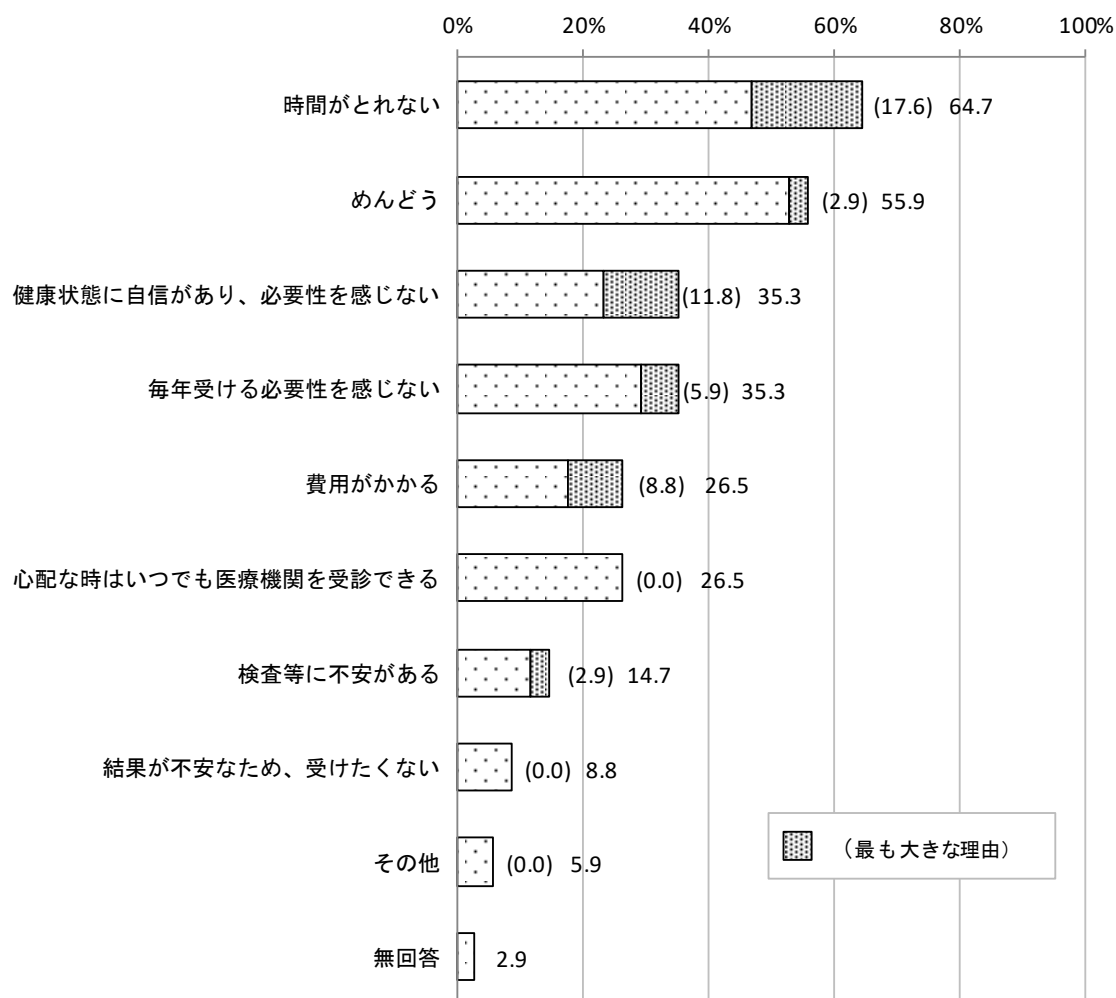
埼玉県で40歳代男性のがん検診率が低い理由は、「時間がとれない」が64.7%で最も多く、次いで、「めんどろ」が55.9%、「健康状態に自信があり、必要性を感じない」が35.3%などとなっている。

問10(2) 埼玉県で40歳代男性のがん検診受診率が低い理由についてお答えください。

(該当すべてに○)

そのうち最も大きな理由と思われるものに1つ◎をつけてください。

(n=34)



13 「その他」の欄の記述集計

(1) その他記述集計表

(集計にあたって) 同じ記載内容に該当するものは、同一項目として件数カウントした。

1) がん検診の実施状況

【問2 貴保険者のがん検診の実施状況についてお答えください。】

ア) 検診を受診できる範囲について (問2 (1))

その他の回答	件数
配偶者のみ	1
扶養の概念がなく、40歳以上74歳までの組合員、准組合員及び家族が対象	1

イ) (実施していないがん検診について) がん検診を実施していない理由 (問2 (5))

その他の回答	件数
がん検診単体としては実施していないが、ドック等、自ら選択した好きな健診(検診)を受診したときに補助金を交付している。その中にごがん検診も含まれている。	1
当組合の他事業で居住の市区町村で実施のがん検診受診費用の全額補助を実施している為、個別のがん検診は未実施	1
腫瘍マーカーで対応実施	1

ウ) (実施していないがん検診について) 他の機会でのがん検診受診を促す取り組み(問2 (6))

その他の回答	件数
「乳がん」「子宮頸がん」は医療機関で検診受診した場合、補助がある旨をガイドブックに記載し、促している	1

2) 各がん検診の実施方法及び実施状況

【問3 貴保険者で実施した各がん検診の検査実施方法及び実施状況についてお答えください。】

(「1 胃X線検査」または「2 胃内視鏡検査」について)

ア) 被保険者の受診対象者の決め方 (問3. 1 (2) 被保険者)

その他の回答	件数
特に対象年齢は定めていない	2
30歳、35歳、40歳以上	1
特定年齢(30. 35. 40. 45. 50. 55. 59)又は、36歳以上の希望者	1
人間ドック受診申込者(全員決定)	1
ABC検診でB群以上に実施	1

イ) 被扶養者の受診対象者の決め方 (問3. 1 (2) 被扶養者)

その他の回答	件数
被扶養配偶者は18歳以上～その他被扶養者は40歳以上	1
年齢制限なし	1
不問	1
配偶者ドック受診申込者(抽選により2,000名)	1
35歳以上の配偶者ミニドック受検者	1

(大腸がん検診 「1 便潜血検査」について)

ウ) 被保険者の受診対象者の決め方 (問3. 2 (2) 被保険者)

その他の回答	件数
全員 (組合員、職員) が対象	3
特に対象年齢は定めていない	2
35 歳	1
人間ドック受診申込者 (全員決定)	1
人間ドック、特定年齢人間ドック対象者	1

エ) 被扶養者の受診対象者の決め方 (問3. 2 (2) 被扶養者)

その他の回答	件数
20 歳以上	1
被扶養配偶者は 18 歳以上、被扶養者は 40 歳以上	1
不問	1
年齢制限なし	1
配偶者ドック受診申込者 (抽選により 2,000 名)	1

オ) 肺がんの検査方法 (問3. 3 (1) 被保険者)

その他の回答	件数
腫瘍マーカー	1

カ) 肺がんの検査方法 (問3. 3 (1) 被扶養者)

その他の回答	件数
腫瘍マーカー	1

(「1 胸部 X 線検査」について)

キ) 被保険者の受診対象者の決め方 (問3. 3 (2) 被保険者)

その他の回答	件数
全員 (被保険者、職員) が対象	2
特に対象年齢は定めていない	2
35 歳	1
人間ドック受診申込者 (全員決定)	1
人間ドック、特定年齢人間ドック対象者	1

ク) 被扶養者の受診対象者の決め方 (問3. 3 (2) 被扶養者)

その他の回答	件数
被扶養配偶者は 18 歳以上被扶養者は 40 歳以上	1
不問	1
年齢制限なし	1
配偶者ドック受診申込者 (抽選により 2,000 名)	1
35 歳以上の配偶者ミニドック受検者	1

(「1 マンモグラフィ検査」について)

ケ) 被保険者の受診対象者の決め方 (問3. 4 (2) 被保険者)

その他の回答	件数
特に対象年齢は定めていない	2
女性従業員全員対象	1
35 歳	1
30 歳、35 歳、40 歳以上	1
40 歳以上の偶数年齢の希望者	1

コ) 被扶養者の受診対象者の決め方 (問3. 4 (2) 被扶養者)

その他の回答	件数
被扶養配偶者は 18 歳以上、被扶養者は 40 歳以上	1
不問	1
年齢制限なし	1

サ) 子宮頸がんの検査方法 (問3. 5 (1) 被保険者)

その他の回答	件数
腫瘍マーカー	1
医師による視診、内診	1

シ) 子宮頸がんの検査方法 (問3. 5 (1) 被扶養者)

その他の回答	件数
腫瘍マーカー	1
医師による視診、内診	1

(「1 細胞診 (医師による採取)」について)

ス) 被保険者の受診対象者の決め方 (問3. 5 (2) 被保険者)

その他の回答	件数
全女性 (職員、従業員) 対象	2
特に対象年齢は定めていない	2
30 歳、35 歳、40 歳以上	1
定期健康診断又は人間ドック及び特定年齢人間ドック受診者	1

セ) 被扶養者の受診対象者の決め方 (問3. 5 (2) 被扶養者)

その他の回答	件数
被扶養配偶者は 18 歳以上、被扶養者は 40 歳以上	1
不問	1
年齢制限なし	1
35 歳以上の配偶者ミニドック受検者	1

3) がん検診の周知

ア) がん検診の周知の方法 (問4 (1))

その他の回答	件数
「乳がん」「子宮頸がん」は医療機関で検診受診した場合、補助がある旨をガイドブックに記載し、周知している	1
人間ドックとして実施しているので、事業所を通じて周知	1
対象者がいる事業所に対して案内送付	1
保険者が母体団体の郵送物と一緒に毎年定期的に事業所へ通知	1

4) 精密検査が必要となった方 (要精検者) の把握

ア) がん検診の要精検者の把握の方法 (問7 (2))

その他の回答	件数
被扶養者は3年間未受診の場合、別業者から勧奨	1

5) がん検診の受診者を増やす取組

ア) がん検診の受診者を増やす取組 (問9 (2))

その他の回答	件数
対象への個人通知	1

6) がん患者への支援

ア) がん患者への支援の方法 (問10 (1))

その他の回答	件数
がん患者に限らず、組合員の場合は就業不能期間が30日以上となった場合は1日5千円 360日限度の傷病手当金を、准組合員へは当組合へ加入してから1年以上経過した者に対し、入院が連続して7日以上の場合、1日2500円 90日限度で傷病病手当金制度を設けている	1

7) がん検診に関する県や市町村に対する要望

ア) 県や市町村に対する要望 (問11 (1))

その他の回答	件数
受診状況把握のため被扶養者については一般健康診断も含め地域での受診に統一し一本化して実施してほしい (健保加入者分の受診費用は健保が負担)	1

8) 埼玉県のがん検診受診率

ア) 埼玉県のがん検診受診率は全国平均を下回っていること、特に40歳代男性が低い傾向にあることについて、感じていること (問12 (1))

その他の回答	件数
胃 (ペプシノゲン) 大腸・肺を健診項目に含め、受診率が健診に連動するため実感はないです	1

イ) 埼玉県で 40 歳代男性のがん検診受診率が低い理由 (問 12 (2))

その他の回答	件数
人間ドックを受診しているため	1
労働安全衛生法に基づく法定健診を実施している事業所が多い。結果として法定項目に胃がん、大腸がん検診・乳がん、子宮頸がん検診が含まれていないことも理由ではないかと思われる。※協会けんぽが健診の一部補助をしている「生活習慣病予防健診」を利用していないケース。	1